

Represo el tiu ĉi organo estas libera, kondiĉe, ke oni indikos la fonton kaj sendos al la redakcio tri ekzemplerojn de la koncernaj numeroj.

看板を雨ざらしから救う道

三宅史平

街には、あまりにおうくの看板と、ポスターとが雨ざらしになつている。

エスペラントによる日本文化の海外への宣揚——これも、それらのポスターとおなじく、雨ざらしのうきめをみているかの印象をようやくふかめようとしている。

わたくしは、この看板を雨ざらしから救うひとつの手段を、ここにしめしたいとおもう。しかし、その手段をしめすまえに、一應、おうくの看板が雨ざらしになる原因について考えてみたい。

雨ざらしの看板にはいたずらにかびがはえるのみで、しかも、実際の仕事のはかばかしく運ばない原因を、すくなくとも、それのおもなひとつを、わたくしは、希望と現実とのはきちがいにあると考える。

なにかの運動にたずさわるひとびとは、とかく、おうきな設計圖をえがいて、指導者がかけごえをかけさえすれば、この設計圖による殿堂は、「たれか」が建設するであろうとゆう錯覺におちいる傾きがあつて、いつも英雄の出るのを待ちあぐんでいる。そして、もつとナ膽なひとたちは、かれが、「すばらしい」設計圖(それは、しかし、たいていのばあい、圓柱の數さえあきらかでない程度であるが)をえがいたとゆうだけで(あゝ、かれらは、設計圖をえがき得るのは、かれひとりであるとおもつている。しかも、1000 人がおうかれ、すくなかれ、もつとはやくから、おなじ設計圖をもつているのに!) みずから、その指導者になろうとさえする。

この夢と現実の力とのあいだに、あらゆる看板を雨ざらしの境遇へおいやる運命的な原

因があるのだ。

こうした傾きについては、われわれのエスペラント運動も、その例外になることはできなかつたといえよう。これは、もちろん、たれかれとゆう個人についてゆうのでないことは勿論であつて、Esperantistaro そのものが——社會全體そのものとおなじく——こうした錯覺におちいつたのである。(價值あるひとびとの名譽をまもるため、いいそえるならば、これが例外にあるひとは、もちろん、すくなくない)。

こうした批判をしたつぎに来る言葉は、當然、出なおしてゆこうとゆうことであり、出なおしてゆく道は、ゆうまでもなく、「力にかなうだけ」(あるいは、現實を忘れない用意さえあるならば、「力のかぎり」とゆう言葉を、ここにつかつてよい)とゆうことになる。

さて、これだけのまえおきをしておいて、日本文化宣揚の看板を活かす手段についてである。

ここにあげるのは、その全體ではなく、その手段のひとつだけであつて、むしろ、ただの「おもいつき」にすぎないとさえ、おもわれ得るものである。しかし、これは、比較的たやすく實行され、また、その効果も、現在としては、かなりおうきいことである。

その手段とゆうのは、外國のエスペラント雑誌、あるいは出版機關の利用である。印刷用紙の貴重なおりから、これは要するに、「ひとのふんどしですもうをとろう」とゆうのである。

この問題については、すでにふるくから考えていたことであつたし、また、おうくのひとびとから示唆もあつた。また、個人的には、それを實行にうつしていたものもあつたところである。

しかし、ここに、この問題を、あらためて、 (185) 1

とりあげるのは、これを、計画的にやろうとゆうのである。そして、これを計画的にやるには、いままでは、その時機が十分に熟していなかつたのが、いまは、非常に都合のよい時機にたちいたつてゐるからである。

今日を、そのことをおこなうに適當な時機とみる理由がふたつある。

ひとつ。今日は、エスペラントを、エスペラントのため、ひろめるために、おうわらわに働く時代ではない。そのため、われわれの精力は、自然、うちに堀りさげるほうへ向けられている。すなわち、鐘や太鼓をにぎやかにたたかかわりに、技術をみがくことに向けられている。

そして、この技術を、それぞれの力に相應して、日本文化の宣揚に役立たせたいとゆう心がまえは、たれにもできている。

ふたつ。うちに、うえにのべたように、時機が熟して來たとき、そとにも、時機が熟して來た。

それは、ヨーロッパのエスペランティストのあいだに、日本に對する興味が、非常に高められて來たことである。もともと、エスペランティストは、一般に、ふるくから、日本に對して、深い好意をもつていたが、支那事變のおきてから、そとの世界とことなつて、その好意はほとんどおとろえなかつた。それが、ヨーロッパに戦争がおきてから、ますます、深められて來たことが明かである。

そのあらわれとして、外國のエスペラントの綜合雑誌に、Japanujo とゆう文字が、めだつて、おうくなり、この機關誌にのつた記事が、しばしば、それらの雑誌に轉載されるようになった。

これこそ、まさに、ただちにとらえるべき機會である。

こうした傾きをつくつたものが、なんであるか、それについて、ここに考えてみることもかならずしも、むだなみちぐさでもあるまい。

この問題を解決する鍵のひとつとして、わたくしは、最近の「ヘロルド」誌の記事のうちの言葉をひきたい。

「支那事變はすでに2年半つづいたが、日本ではエスペラント運動は盛んである。内容豊

富な機關誌『レヴォ・オリエンタ』は時計のように正確に出ている……」。

人類の歴史はじまつて以來の大がかりな戦争をおこなつてゐるなかに、エスペラント運動がすこやかにつづけられ、機關誌が規則的に發行されていることは、ヨーロッパのエスペランティストたちにとつて、驚きであり、おうきなよろこびであつた。このことは、やがて、あらゆる誹りにもかかわらず、日本が、新しい文化の建設のために戦つてゐるとゆう言葉のいつわりでないことをものがたるものとして、日本との親しみをふかめたのであらう。そして、ヨーロッパ戦争がはじまるとただちに、どの國でも、エスペラント運動の機關誌の發行は、一時、混亂状態におちいつた(4月號 41 ページ、「ヨーロッパ戦争とエスペラント」参照)とき、かれらは、ページもへらず、「時計のように」正確に出つづける、この雑誌の發行状態に、いまさらの如く、驚きをおうきくし、日本の實力を、底知れないものに考えはじめ、その驚くべき國へ對する興味を一層高めたものであらう。

さて、ヨーロッパのエスペラント雑誌、出版機關利用の方法についてである。

これは、うえにのべたように、計画的であり、統制的でなければならない。しかし、その計畫、その統制を、「あまくだり」にもとめてはならない。計畫は、ひとりびとりのエスペランティストの考えの合計にもとづくものであらなければならない。そしてその實行は、ひとりびとりのエスペランティストの力添えによらなければならない。

わたくしは、ゆうまでもなく、當然の義務として——エスペラント運動の専門従業員としてのみでなく、單に、ひとりのエスペランティストとしても——これが計畫にあずかり、これが實行にあたりたいとおもつてゐるが、全國のエスペランティストの協力、特に、これが實行にあつて、事務的中心地となるであらう東京の會員のかたがたには、雜務についての力添えも期待したい。

また、これが計畫のたてかたについては、宮崎の大會において、ひとつの問題としてとりあげたいとおもう。

筆者は學會主事、本誌編輯者

第5回普通學力檢定試験 問題と講評

3月17日・東京、大阪、名古屋で施行

講評

エス文和譯

1, 2, 3, 4 はみな Ekzer-caro そのままで、5 だけが應用問題。なかなか上出来で、14 人中 100 點が 9 人ある。

1. お父さんといつしよにいらつしやい。

きわめて簡単だ。

2. 彼は怒つて戸をしめた。

「怒っている様に」とした人もあつたが、これでもよい。ていねいな人は「怒つてあらあらしく」。

3. 客間には彼と彼の婚約した女以外には誰もいなかった。

「サロン、廣間、應接間」もあつた。結構である。小坂さんの註解には「座敷」とある。要するに Eleganta ĉambro, ordinare destinita por ricevi vizitantojn, Plena Vortaro であることを知つておればよい。Fianĉino は婚約が成立してから結婚までに用いられるので、日本のいいなずけもこれであらわせるが、いいなずけのみでなく、普通の大人が普通に婚約した場合でもよいのである。

4. 秋にはたくさんの鳥がもつと暖い國々へ飛んでゆきます。

いろいろの譯しかたがあつた。みな結構。

5. ザメンホフはユダヤ人であつたが、しかし全世界を愛した。

judo は Ekzer-caro にないが、みなよく解つていた。「全世界の人々を」とした人もすこしあつたが、結局の意味ではまちがいはないが、この程度のエス文和譯ではこんな譯しかたをする必要なし。

川崎直一

問題

エス文和譯

1. Venu kune kun la patro.
2. Li fermis kolere la pordon.
3. En la salono estis neniu krom li kaj lia fianĉino.
4. Multaj birdoj flugas en la aŭtuno en pli varmajn landojn.
5. Zamenhof estis judo, sed amis la tutan mondon.

和文エス譯

1. 私は海より山が好きだ。
2. 來週月曜日午後3時頃お伺いしたいと存じます。
3. 東京の人口は日本第一です。
4. 彼は今日は機嫌が悪い。
5. 彼はポケットから金を取り出した。

和文エス譯

今回の和文エス譯は問題がやさしかつたせいもあるが、成績は大體良好であつた。しかし欲を云えばもう一息とゆう感がした。とゆうのは語の配列の仕方などにももう少し工夫をこらしてエス文らしい味を出して欲しいと思つたからである。1問と2問とにその感がとくに強かつた。意味さえ通ずればどんな表現でも構はぬと云つてしまえばそれまでだが、矢張り生きた言葉である以上文體とゆうものを無視することはどうかと思う。次に各問題について多少述べておきたい。

1問. 一人残さず全部の方が「好きだ」を amas とやつていた。これでもいいけないことは勿論ないが、ŝatas が1人位あつてもよかつたと思つた。pli を用いた人も用いない人もあつたが、用いておる人でも、その位置がどうかと思われるのばかりであつたのは残念。monto にも maro にも茲には冠詞不要。拙譯を参考のために書いておく。

Mi pli ŝatas monton, ol maron.

2問. これはやさしいようで實は必ずしもそうではないと思つていたが、案の條種々様

様な表現があつた。どれも全然駄目とゆうのではないが、この丁重な文の意をしつくりとらまみのある表わし方をしたのが無かつた。volas, volos の一てんばりであつたが、この際こそ volus を使つて欲しかつた。勿論 volus でなければならぬとは云わぬが、その方がこの文としては pli bona であることは明らかだ。來週月曜は午後3時とあるものだから、それを逆にすればよいと思つたか順序を3時午後月曜日來週とした人が多かつた。それで用が足せないとはむろん云えないし、文法的にも誤りないが、それではまだまだスマートな文とは云えないようだ。この際の「來週」には、ぜひ冠詞が欲しいと思う。大部分の人はそれを略していた。拙い譯とは思ふが私の譯文を参考の爲めに：—

Mi volus vin viziti la venontan lundon, je la tria horo post tagmezo.

3 問. これは大抵よく出来ていたが「第一」とゆうのを意譯せず unua とした人があつた。主語を loĝantoj とすれば la plej multaj で結構と思う。又 Tokio havas... とやつた人があつたが、これは大變結構と思う。

4 問. 「機嫌が悪い」を en malbona humoro とした人が大多數であつた。それでも悪くはないが, kolera でもよいと思う。hodiaŭ は最後に置くより、文意からすれば Li estas の次に置いて、

Li estas hodiaŭ en kolera humoro. としたかつた。

5 問. 「ポケットから」を el lia poŝo とした人もあつたが、これは勿論 el sia poŝo がよい。(とり出した)は elprenis でよい。これはまちまちで eltiris とか elportis などとゆうのすらあつたが、矢張り elprenis をとる。(妄評多謝)

川原次吉郎

口頭試問(東京) 試験の模様、受験者への批評を記して一般讀者の参考に資したいと思う。

先ず受験者が入室された時 Bonvolu sidigi.

4 (188) といつて椅子を示した。これは採點には關係

なく行つた。

第1問は Kia estas via nomo?

文法的な返答としては Mia nomo estas —. である。してそう返答した人もあつた。が主語と補語の順序を逆にして —estas mia nomo. としても差支はない。又 Mi estas nomata —. と返事された人もあつた。上の質問に對し變化のある答としては良いと思う。咄嗟に適當な文句が浮ばない時は、姓名だけでも云つた方が黙つているより遙によい。これは試験を離れて實際の場合、尙更必要な事である。

第2問は Kiam vi komencis lerni Esperanton?

此の質問の文句を直ぐ返事に取り入れて、

Mi komencis lerni Esperanton antaŭ du jaroj.

の如き返答が多かつた。これは普通試験としては満點である。が、これも實際生活の問題として考えると、こう分りきつた質問を全部繰返すのは多少 infaneca に響くようである。言葉を變えて

Mi eklernis (ĝin) antaŭ tri jaroj.

Estis Majo, lastjare, kiam mi komencis lernadon.

とでも云つたら、聊か艶が出て來よう。然し私見を云うなら、我々がもつと言葉に親しみを感じて來ると、以上のように、補う餘地のない迄にはつきりした質問に對しては、單に Antaŭ tri jaroj, sinjoro. といつた丈で充分で、寧ろこれは高等會話に屬すると云えよう。之に尙お慾を云えば informo として sub la gvidado de s-ro —. とでも附加えるのであるが、これは無論普通試験に望みもしないし、又初期にそうやる事が良いかどうか議論もある事と思う。

次に下の八語を書いた紙片を示して發音して貰つた。

- | | |
|--------------|------------|
| 1) hundo | 5) reloj |
| 2) fundo | 6) manovri |
| 3) scienco | 7) sukero |
| 4) arĝentaĵo | 8) pri |

hundo を正確に發音した人は皆無であつ

〔公告〕

學力檢定合格者

下記の諸氏は、學力檢定規約による檢定に合格されました。

昭和15年4月1日

財團法人日本エスペラント學會
理事長 大石和三郎

普通・1 (3月17日、東京、大阪、名古屋で行った試験に合格)、85. 喜安善市(東京)、86. 久米公子(浦和)、87. 山田敏雄(東京)、88. 鈴木辰男(東京)、89. 三根隆雄(東京)、90. 藤井元子(東京)、91. 上谷良吉(東京)、92. 隅田益子(大阪)、93. 田伏三郎(大阪府)、94. 村上幸雄(名古屋)、95. 田中鈴子(名古屋)、96. 丹羽正之(名古屋)、97. 安井治夫(名古屋)、98. 鬼頭豊(名古屋)(地方別申込順)

普通・2 (規約第14項に基く推薦)、99. 田北佐平(東京)、100. 小宮儀平(東京)(以上2

人、推薦者三宅史平)

高等(以下前月發表洩れにつき追加)附則第1項によるもの: 200. 平田鬼丸(大牟田)、201. 高橋菊藏(東京)、202. 吉田太市(東京)、203. 寺田治二(大阪府)、204. 倉地治夫
附則第2項によるもの: 205. 吉井大二(東京)

普通試験施行

下記の通り普通試験を施行します。

昭和15年4月12日

財團法人日本エスペラント學會
理事長 大石和三郎

時日: 昭和15年5月19日

場所: 高岡市

申込: 5月5日までに、學會あてに、住所氏名(ローマ字綴つき)明記、受験料1圓をそえておもしろくください。(振替東京11325番)
發表 合格、不合格は受験者へ通知、合格者氏名は、學會機關誌で發表。

た。此の語では hu だけをみたのであるが、ha と同様、唇に妨げられずに出す練習をして貰いたい。

fundo は先ず唇音があつた丈けで通した。hundo と fundo を數回繰返して貰つたが、聞いた丈けでは區別のつかなくつた人が多かつた。今回の受験者も尙お充分練習をお願いする。

scienco の ci は大抵上出來。

argentaĵo では ĝ と ĵ との區別をして貰つた。出來たのは僅に2名に過ぎなかつた。ĝ は斷絶音、ĵ は連續音、又 ĝ は何故斷絶するか理由も gvidanto としては教えられたがよいと思う。

reloj では r と l の外に、j をつけた爲アクセントの位置を取換えるかどうかを見た。最後の點で間違ふ人は無かつた。l は舌の形を教えただけで容易く覚えられるが r は中々難しい。英國の Richard Sharpe 氏は r 音を征服する爲數ヶ月猛練習をしたと云う記事が Travivaĵo に出ていたと思う。讀者諸君の中でも未だ充分でないと思われる方は熱心に練習して下さい。

manovri これは、餘り見かけない語をどう取扱われるかを見たいのと、v の音を見ただけです。従て reloj で r の出來なかつた人は

此語では r は計算せず、v だけを見た譯です。

sukero では無論 su を見る爲で、大概 skero と發音された。そこで sukero と skero とを示して區別して貰つたが、矢張り同じ様に聞える。本人は區別して居られるようであるが。唯1人ヌーと長く引ばつた人があつた。此人に「ウ」の音を短くと注文したら、u が消えて skero となつてしまつた。次のような言葉で、この短い u を練習されるとよい。suferi, sufiĉa, sufoki, superi, supozi, kukolo, kuseno, kutimo.

又次の語の i も消えぬように、hipokrita citaĵo, kitelo 等。

pri この語では p 音を見たのであるが、正確に發音した者は1人も無かつた。即ち日本音のプと u の母音をつけて發音した。そこで ri を指で隠して p だけを發音して貰つた。大概の人は今述べた pu で、p が無聲音である事を知らなかつた人が多かつた。p は無聲音でも、r に母音性があるので、微な母音は起るが、p を初から u をつけて出すのと(どんなに短くても)、無聲の氣持で始めるのとでは大變な相違である。どうぞ受験された方も、これを機會にみつしり勉強して頂きたい。

佐々城佑

(189) 5



第2回小坂賞受賞者 城戸崎益敏氏に決定

「エスペラント第一步」に對して
15年にわたる不斷の努力も考慮

輝く2600年における小坂賞受賞候補者は、全國のエスペランティストのあいだから推薦されたエスペラント運動功勞者について、小坂賞委員會において慎重に銓考の結果、城戸崎益敏氏に決定、光輝ある第2回目の榮冠は、来る宮崎の大會において、この「エスペラント第一步」の著者にあたえられることになった。

特に考慮に入れて授賞するたてまえになつてゐるため、今回の授賞の動機としては、主として、「エスペラント第一步」の著作が挙げられてゐるのであるが、しかし同氏の今日にいたるまでの、長い努力があわせて考慮されたことは、ゆうまでもないことである。

今回推薦のおもな動機となつた「エスペラント第一步」は白水社の出版、同社の外國語の「第一步」セリオの1冊として出されたものである。

これが内容は、從來のエスペラント獨修書に對して、ひとつの新規軸を出したもので、學習と同時にエスペラント運動に對する理解を與えるものであり、またその新鮮な講義ぶりも推奨に値いするものであるが、一般書店、とくに、語學獨修書の發行元として定評ある白水社から出されたことは、一般社會のエスペラント學習に對する興味を刺戟したところ少なく、近來やや停滯の氣味に見えるエスペラント界に清新な息吹を送つたものと

して、單なる學修書としての價値のほか、その普及運動上の功績も相當高くかわれたのである。

さて、今回、城戸崎氏が小坂賞を贈られるにあつて、同氏の過去の業績について記憶を新たにしてみたい。

城戸崎氏は、したの履歷書にあるとうり、福岡高等學校に在學中にエスペラントを學ばれたのであるが、やがて、九州における、もつとも積極的な同志の1人として活動された。

城戸崎益敏氏略歴

明治40年4月24日福岡縣に生る。當年34歳。父が軍人であつた爲に學校は轉々としてかわり、最後に大正13年靜岡縣立濱松中學校（現在濱松一中）を卒業し、同年福岡高等學校文科乙類に入學す。福高在學中、大正14年エスペラントを知り、九大教授大島廣博士の講習を受けた。當時の福岡エスペラント會は最も華かな充實した時代であつて、大島廣、伊藤徳之助、藤澤親雄、村上知行、永松之幹氏等に刺戟される所が大きかつた。

昭和2年九州帝國大學法文學部に入學したが、専ら九州エスペラント聯盟の爲に奔走、

東京へ移られてからは、足しげく學會に入
入し、守隨一、馬場清彦、宋禹憲、伊藤巳酉三、
露木清彦、そのほかの諸氏とともに、ほとん
ど毎日のように、新小川町へかよい、レヴオ
の編輯に、雜務の處理に、獻身的に働かれ、
ほとんど學業をおこたられていたかの感さえ
あつたほどである。

また、昭和8年大阪に移られてからは、大
阪エスペラント會のもつとも熱心な會員とし
て、特に名會計係として、地方エスペラント
運動の發展向上に盡され、地元會員感謝の的
となつていられる。

城戸崎氏の著書は、したにあげる目録にあ
るように、有益なものがたくさんあるが、その
うちでも、「エスペラント文例集」(單語カード
は同一内容)、「ザメンホフ讀本」、「エスペラン
ト案内」などは特に注目すべきものであろう。

「エスペラント文例集」は、豊富な文例を集
め、エスペラント作文參考書として、學習者
に寄與するところ、はなはだ大きく、日本の
エスペランティストの技術を高めるうゑに役
立つところが少くない。

ザメンホフの著書およびザメンホフに關す
る諸著作から拔萃した文章をあつめた「ザメ
ンホフ讀本」は、その選擇が、まことに適切
であり、ひととおり文法を修めた人々が、さ
らに深くエスペラントを研究しようとするに
あたつてのよい手引であり、高等科講習會あ
るいは研究會の資料として、もつとも推奨さ

るべきものである。これが價值については、
日本で出版されたエスペラントの教科書(あ
るいは、エスペラントの文獻全部)のうち、海
外からの需要のもつとも大きいとゆう事實が
證明している。

「エスペラント案内」は、氏の自費出版にな
るものであるが、小冊子ながら、その新鮮な
内容、外觀によつて、エスペラント界の出版
物のうちに異彩をはなつものである。

さらに、目下着々と進行中の、精力的な事
業、「OES 文庫」にも言及したい。

「OES 文庫」は、大阪エスペラント會の事
業であるが、その立案、企畫はもとより、その
編輯、著者や印刷所との交渉、その他發送の
雜務にいたるまで、ほとんど城戸崎氏1人の
手によつて遂行されている。

この文庫のうち、城戸崎氏自身の著作にな
るものは、既刊には、第1冊“Verda Kant-
aro”があり、56 ページにわたる樂譜の原紙
も、みずから切られたものである。近刊には
「名著讀本」があるが、これも、いままでの氏
の著述の手際から豫想して、もつともよき讀
みものを提供されることとなるであらう。

また、この文庫の1編として、“Konkord-
anco al Marta”が出される豫定と聞くが、
この Konkordancoこそ、氏の勞作のうちで
も、特に大きな努力によるものであつて、こ
れが出版のあかつきは、エスペラント研究者
のうける恩恵ははなはだ大きいであらう。

年鑑や、雑誌「Tagiĝo」を出版したり、各地
のエスペラント會を歴訪して、講演や講習を
なした。九州に於ける日本大會の先鞭をつけ
た福岡の第15回大會も、殆んど江口廉氏と
2人で之が衝に當つた。

折からこの大會に出席された岡本好次氏の
勧めもあり、昭和3年九大を退學し、改めて
東京帝國大學法學部に入學、日本エスペラン
ト學會に出入する様になつた。新小川町時代
から元町時代へと、小坂狷二、岡本好次、三石
五六氏の下に、機關誌の編輯や、校正、また
出版部の手傳をして編輯物を出したりした。

昭和8年卒業後、安田生命保險株式會社に
入社したが、病氣の爲に退社。昭和9年改め

て株式會社大和田銀行に入社、大阪に轉住し
現在大阪支店次長として勤務。

九州エスペランティスト聯盟年鑑 昭和2年

九州エスペランティスト聯盟

ハイネ詩集 (椎橋好氏と共著) 昭和3年

日本エスペラント學會

エスペラント文例集 昭和4年 //

エスペラント單語カード //

ザメンホフ讀本 昭和6年 //

エスペラント案内 昭和13年 //

エスペラント第一歩 昭和14年 白水社

エスペラント第一歩讀本 //

綠歌集 昭和15年 大阪エスペラント會文庫

エスペラント名著讀本(印刷中) //

第28回日本エスペラント大會日程

第 I 日

4月28日(日) 大會受付正式開始

午後6時—9時 前夜懇談會

會場、宮崎市山形屋食堂(市内旭通)
新築の山形食堂に於て同コック長自慢の
2600年記念エスペラント料理を共にし、遠
來の熱心なる同志と隔意なき意見の交換を
行い、所謂大會氣分を醸し出す懇親的な會
合。是非同志の參加を待望す。

第 II 日

4月29日(天長節)

會場、宮崎縣教育會館(市内本町)

午前8時 開場

午前9時 天長節祝典

午前9時20分 大會開會式、小坂賞授
與式

午前10時10分 皇紀2600年祝典

午前10時30分 大會協議會

記念撮影

午後0時30分 晝餐會

各地代表の挨拶(一部)

午後1時40分 郷土舞踊觀覽

午後2時10分

財團法人日本エスペラント學會總會

午後3時10分

分科會(會場、縣公會堂食堂)

九州エスペラント大會(縣教育會館)

高等試驗(同上)

小坂賞委員會(同上)其他

午後6時

懇親晚餐會(會場、市内富士越大廣間)

分科會報告、地方代表及有志挨拶

餘興(日向民謡其他)

閉會式

第 III 日

4月30日(火) 聖地巡拜

第 I 班(遊覽バス):

宮崎神宮—八紘基柱—青島—鵜戸神宮

第 II 班(バス):

妻町西都ヶ原古墳、都萬神社—美々津—立
盤神社

第 III 班(汽車及びバス):

宮崎—延岡—高千穂峽附近及聖蹟巡拜

[注意] 以上日程の詳細は Informilo
(No. 2) 及び Kongres-libro に掲載する。
前者は申込次第送呈、後者は參加申込者
には漏れなく謹呈する。なお參加申込書及び
振替用紙御入用の方は下記へ。

宮崎市南廣島通三丁目杉田醫院内

第28回日本エスペラント大會

準備委員會

○提案二つ:

1) 出征エスペランティストに大會參加者
署名の共同慰問文を送る件(宮崎支部呈出)
此の提案實行の爲め出征エスペランティスト
の adreso と nomo とを至急準備委員會
宛お知らせ下さい。

2) “Kolektiva danko al s-ro Okamoto-
Joŝicugu de uzantoj de liaj vortaroj per
nova eldono de lia monumenta verko
Fonetika Studo de Esperanto” (大阪、進
藤靜太郎氏原案)

○提案は早目にお願いします。

○分科會は未だ正式申込が二つしかありま
せん。準備の都合がありますから至急申込
下さい。

○代表者を大會に送つた地方會には紀念品贈呈の豫定。

○宿に特別の注文ある方は至急御申出でなければ到底宿舍拂底の折柄合宿以外の特別な部屋は御座いませんが、宮崎市内の同志

も萬障繰合せて茅屋提供するつもりですから不在參加豫定の方も奮つて實際參加に心境の變化を願います。

○出征者家族並遺族は參加費を大會にて負擔しますから、其旨申込書に御記載下さい。

PROPONO (manuskripto) de Ŝindo-seitaro, Osaka

“Kolektiva danko al s-ro Okamoto-joŝicugu de uzantoj de liaj vortaroj per nova eldono de lia monumenta verko Fonetika Studo de Esperanto.”

Klarigo:—

Oni ne bezonas multajn vortojn por klarigi, kiel granda estas la merito de s-ro Okamoto-joŝicugu en Esperantujo, precipe en nia lando. Ĉiam, kiam ni uzas liajn vortarojn, ni ne povas ne pensi, kiel ni danku al li pro liaj verkoj kaj laboro. Ĉi tiu dankserito ĉiam estis unu el la plej bonaj instigiloj por mi en mia propra laboro, sed tiom pli mi sentadis pli kaj pli grandan ŝuldon al li. En mia koro ĉiam restis la demando, kiel mi pagu ĉi tiun grandan ŝuldon al li en la konkreta formo. En la komenco de tiu ĉi jaro la redaktoro de nia Revuo Orienta sendis al mi unu demandon pri elparolo de kelkaj vortoj, por mi respondu al ĝi: Skribante la respondon, mi foliumis lian Fonetikan Studon; tiam venis en mian kapon ĉi tiu propono. La verko tre bone reprezentas lian laboron energian kun ampleksa laborhorizonto kaj ĝisfunda studo kaj ĝustaj konkludoj, ne nur por ni, Esperantistoj, sed ankaŭ pli vaste por

ĝenerala publiko interesiĝanta je fonetiko. Ĝi reeldoniĝu en deca aspekto merite al la valora enhavo! Jen estas la kerno de mia propono, kaj mi ne dubas, ke estas ne malmultaj samideanoj, kiuj same pensas kaj volonte gartios ĝian reeldonon per mondonaco.

Metodo:—

La unuo de monofero estu kvindek (50) sen, kaj partopreno kun pluraj unuoj estas tre dezirataj.

Ĉiu partoprenanto rajtas ricevi unu ekzempleron de la nova reeldono kondiĉe, ke la kosto estas malpli ol kvindek senoj; kiam la kosto estas plialta, li pagas la diferencon, se li partoprenis per la monofero malpli ol t'ŭ plialtiĝinta kosto.

La tuta eldono, kiun ĉi tiu kolektiva danko efektivigas, apartenos al s-ro Okamoto-joŝicugu.

Sur ĉi supraj fundamentaj principoj la Kongreso nomu komitaton, kiu zorgas la monkolektadon kaj la eldonon k.t.p.



ピッツバーグ市の舊蹟、Fort Pitt 前の筆者。これは 1759 年に築造された砲臺の監視所である。

倉地治夫 アメリカで遇つた人々

私は昨年 5 月 11 日横濱を出發、米國の各地を旅行し、約 8 ヶ月の後、本年 1 月 7 日歸朝しました。勤め先からの或る重要な任務を負ひての旅行であり、而もあわただしい出發であつた爲、あちらの Esperantistoj を訪ねるための準備も少なく、時間の餘裕も充分にはありませんでした。それでも、出る前から機會があれば出来るだけ訪ねて見たいと考え、多少の準備もし、僅かではありますが、2-3ヶ所の Esperantistoj に遇う事が出来ました。ここに乞はるるままに、當時の懐しい思出をたどり乍ら、エスベラントに關係のありそうな話を拾ひ集めてみたいと思います。

ピッツバーグ市

私は主としてペンシルヴァニア州の Pittsburgh 市に滞在して居りました。この町は、人口 80 萬ばかり。海拔 700 呎の高原で、丘陵に囲まれた古い町です。町の北には、東京の隅田川よりちよつと廣いアレガニー河が流れ、南を流れる同じ位の川幅のモノガエラ河

と、市の西端で合流し、ミシシッピー河の支流であるオハイオ河となります。此のアレガニー、モノガエラ兩河の間に作られた三角地帯が市の中央部を形成し、Golden Triangle (Ora Triangulo) の名で呼ばれています。

此の町の附近には、米國でも稀な大炭田や鐵鑛山があり、石油や天然瓦斯も豊富にあります。この天産に恵まれて、今日では、シカゴ市と共に米國の二大工業中心地をなし、鐵鋼の産額は米國第一、年産額は約 20 億萬弗と言われ、有名なカーネギー製鐵會社の各種工場や、電氣機械器具の製作者として名高いウェスチングハウス會社、世界第一のアルミニウム製造會社アルコアを初め、いろいろな工業會社が附近に散在して居ります。Iron City (鐵の都) の別名のあるのも理りです。またこの爲に煙の多い事もアメリカ第一で、Smoky City (煙の都) の別名もあります。

一方又工業教育の中心地でもあり、カーネギー氏が 30 億萬弗を投じて建設したと稱せられる學園内には、世界各國の留學生の居る工業大學 (現に應用化學に 1 人の日本人學生が居る)、70 萬冊を藏するカーネギー工業圖書館、日本支那をも含む東西古今の珍品を集めた美術博物館、圓柱 1 本にも數萬弗を投じたと言うミューデックホール等があり、メロン財團に依つて經營されその研究方法に特色の

あるメロン研究所、さては、工業醫の各分科を持ち、百五十年の歴史を持つピッツバーグ大學、文科方面のデュケン大學、更に7萬人を收容できる大スタディウム、マーシー慈善病院等等、數えあげれば限らない數多の文化機關を網羅して居ります。

私は今ピッツバーグの案内記を書く心算はないのですが、此様な高度の文化を持つ町にも、1人のEsperantistoをも見出すことの出来なかつたのを残念に思うのです。

私の滞在中、友人の石黒兄がわざわざ手紙で、數年前同氏と交通のあつたピッツバーグ市滞在のエスペランティストのadresoを知らせて下さつたが、今はもう探しあてる事も出来ませんでした。

IEL (Internacia Esperanto-Ligo) の1939年のJarlibroを見ますと、此町から數哩離れたDuquesne市にお醫者をして居るS-ro I. L. KinneyがDelegitoとして戴つて居ますが、Surdmutulo (つんぼで而も啞者) と註が加えてあつては訪ねて見る勇氣も出ませんでした。

専門學校程度以上を出た比較的知識階級の人々にエスペラントの話をして見ても、この名前すら知らない者が大部分です。せめてカーネギー氏が文化事業に投ずる資金の、ほんの一部分でも、國際語の運動に割いてくれたらと、つくづく考えました。

ワシントン市

7月4日。此日は米國民に取つて一年中で最も大切な祭日「獨立祭」の日です。一般に“July Forth”の名で呼ばれ、日本で言えば紀元節、何處へ行つても仕掛花火が催され、老も若きも、クリスマスに次いで楽しむ日です。丁度私の厄介になつて居た會社では、7月1日から此の日まで臨時休業する事に決りました。もつちの幸い、此機會にアメリカの首府Washington市訪問を企てました。同市にはEsperanto Asocio de Nord-Amerikoのoficejoがあり、寫眞屋さんのS-ro J. Leahyが中心に活動していると聞いていたので、私のprogramoの一つとして前から訪問を豫定して居りました。仕事の都合上で何時訪問



“Cathedral of Learning” (學の殿堂)。
これはPittsburgh Universitatoの1部で
41階建、12000の學生を收容できる。

きるか不明のまま、豫め連絡することも出来ずに過して居たのでした。丁度此の臨時休業の話が決つたのが6月30日の朝。あまりに急で、連絡できるかどうか不安でしたが、その日の午前中にS-ro Leahyに航空郵便を差出し、7月1日夕刻、同市ユニオン停車場へ到着の時刻を通知し、出迎えを依頼しました。米國に於ける航空郵便の發達は目覺しいものがあり、ピッツバーグからワシントンまで汽車で8-9時間の距離ですが、航空郵便では、時間の都合さえよければ、差出してから先方の手元に渡るまで、2-3時間の速さです。

1日の朝、友人と2人で勇躍車中の人となりました。此の友人はエスペラントは話せません。ワシントンに着いたら、大いにエスペラントの偉力を誇る心算で、内心ほくそ笑んで居りました。午後4時半、列車は愈々首都ワシントンの玄關口、ユニオン停車場に込みました。工費1,800萬弗を費したと言われる總花崗石造りの一大殿堂、長さ620呎、高さ65呎乃至120呎。さすがは首都の玄關として辱しからぬ偉容です。黒ん坊——アメリカでは、停車場の手荷物運搬夫は殆んど黒人、帽子は矢張り赤帽だが顔や手は黒ん坊で

す。此の黒ん坊に手提鞆を托して、悠々とプラットホームに下り立ちました。

きつと Verda Standardo を掲げて来るだろう。大勢来るだらうか。1 人か知らん。脊は高いだらう。どんな顔の男だらう。……等等。色んな想像をしながら待合室に出て見ました。ところが……意外にも Verda Standardo も、verda stelo も、それらしいものが一つも見付からない。こんな筈はないと、いくら探しても、遂に見出す事ができませんでした。アメリカ人が時間を間違える筈はない。會合などでも實に時間の觀念のやかましい國民です。だが、汽車の時間は此の國には珍らしく不確實で、30 分、1 時間おくれるのは度度です。事によるとそんな事を見越しているのかも知れない。少し待つて見ることにしました。約 1 時間待つても矢張り無駄でした。遂にあきらめて、Hotelo に自動車を走らせました。Hotelo は、例のホワイトハウスとして名高い大統領官邸に程近い、“Hotel Ambassador”と決めました。エス譯すれば ambasadoro「大使」。日本語で言つて見れば「大使ホテル」——「大使旅館」——「大使館」……ちよつと變です。

Hotelo に着くや否や、電話帳をめくつて見る。協會の名前で引いて見たが見當らない。S-ro Leahy で引いても出て來ない。Kunvenejo が Thomson School 小學校など言う事だつたので、それも引いて見たが駄目。直接訪問して見る事に腹を決めて、地圖を調べて見ると Asocio は hot lo から 5-6 丁の所である。夕方の 6 時頃——と言つても本當はまだ 5 時頃。御承知の様に、アメリカでは大部分 州で、所謂 Daylight saving time と言つて 4 月の最終の日曜日の午前 2 時から、9 月最終の日曜日の午前 2 時に至る期間、時間は 1 時間早くしておくのです。この夏期特別標準時は、第一次歐洲戦争の當時、空襲による夜間の作業が困難になつたことと、電力節約の意味から、歐洲各國で定められ、アメリカでもそれに倣うことになり、引續き今日まで實施されて居ると聞いております。談話をさて置き、7 月の 5 時はまだ仲々暑。漸く辿り着いてみると、その番地に相する建物

は、取毀中でありました。何處かへ引越した事が初めて判りました。之では、自分の出した航空郵便も間に合わなかつたんだらう。今頃は受取つてゐるだらうが、Hotelo は何處とも指定して置かなかつたので、訪ねて來てくれる望もない。(着いてから宿を決める心算でした)。S-ro Leahy は寫眞屋さんと聞いていたので、同業者なら轉居先が判るかも知れぬと考えて、丁度すぐ向い側の二階に寫眞屋を見付けたので行つて見ると、土曜日の午後の事とて扉は閉ざされている。引返して約 10 町程離れた Kunvenejo の Thomson School を訪ねて見たが夏休みで小使さん 1 人、居ない。足は疲れる汗は出る。夕食前でお腹は空く。

萬策つき、がっかりと宿に歸り、或は Poŝtoŭicejo に轉居先が届けてあるかも知れぬ。再び手紙で「大使ホテル」に居る旨を書き送ることにした。だが、ワシントン滞在 4 日間、遂に返事は來なかつた。一緒に行つた友人も氣の毒がつてか「エスペラントは駄目ですね」とも言わなかつた。

7 月 3 日。話は變つてアナボリス海軍大學への観光自動車の中。案内嬢ならぬ案内者が日本の観光自動車でもする様に、盛に沿道の説明をしてくれる。暫らくすると「貴方は何處の state (國、州) からですか」と 1 人 1 人聞いて廻る。妙な事をするものだ。時節柄、アメリカでも海軍大學などとゆう處は外國人には見せないのかも知らん。それにしてはアメリカ人にさえ國籍(?)を聞くのは合點がゆかぬ。やがてこの案内人は、ワシントン市の自慢話を初め出した。ワシントン市は政治の中心地で……と言う話になつて、「各國の人がワシントンに集つて居る。現に此の自動車の中にも、テキサス州の人、カリフォルニア州の人、オハイオ、アイオワ……さてはフランスのパリーからの観光客、ルーマニヤ人、日本人迄が乗つてゐる」とゆう説明。米國各州をフランス日本等と同列に並べ立てる處も、しるい。

之は面白い事になつた。アメリカ人は駄目だが、歐洲から來た人だつたら或はエスペラントを知つて居るかも知れん。自動車が休憩

のため停つた所で、コカcola（アメリカ特有の清飲料水で全国に亘り愛用されている。サイダーに少し苦味をつけた様なもの Coca cola）を飲みながら、フランスから来たという三十前後のインテリらしい Junaj geedzoj に話しかけて見たが、エスペラントのエも知らなければ、名前も聞いたことがないとゆう。

ルーマニヤから来たという四十前後の、商人らしい紳士をつかまえて話しかけて見た。實に流暢な英語を話す。

“Ĉu vi parolas Esperanton?” 返事がない。“Can you speak Esperanto?” “I can't speak Esperanto” の返事にはがっかりした。

「随分流暢に英語を話しますね。」

「私はロンドンに數年間居たので、そこで習いました。」

「ルーマニヤでエスペラントは仲々盛な様に聞いて居りますが……」

「仲々盛です。しかし私は未だ習つた事ありません。」

「アメリカではエスペラントは駄目ですね」

「大體英語國民は、外國語の學習に熱がない様ですね。私がロンドンでの經驗でも、あの國では學校でフランス語を教えますがフランス語の話せる人は少ないですね。外國語を覚えなくてもやつて行けるからでしょう。」

運轉手に促されて車中の人となり、そのまま此の人とも話す機會を得なかつた。

7月4日朝、ワシントン發ピッツバーグ行の一等車に納つて、アメリカ煙草のキャメルを喫ひながら傍らの“New York Times”の朝刊に目を落した。ふと目に止つたのは“ESPERANTO”の文字!! 胸おどらせ乍ら良く讀むと、“ESPERANTO DAY MARKED AT FAIR”の見出しで、本文80行ばりの記事が載つて居るではないか。

「——目下ニューヨークの萬國博覽會場で開催中の北米エスペラント協會の第32回年次大會第3日即ち昨日、同會場内「平和の庭」で Esperanto Day が祝された。アメリカ各地からの代表者一千名の他に、ホーランド、エストニヤ、アイルランド、イタリー、ベルシヤ、印度、スペイン各國の代表者が參會し云々……」

と、息をこらして讀み續けた。日本の代表者は? 誰も見付からない。支那人は? 無い。實に残念。千載一遇の好機を逸した。

「ニューヨークエスペラント協會の會員であり、フルートの名手として知られた S-ro L. D. Calliamahos がエス語で演説し、それが英語に譯された——氏は今日何れの「民も良き市民たらんと欲せば同時に良き世界人であらねばならぬ。そしてかくある爲には、自國語以外に二つの言語を知らねばならぬ。その一つは“Language of heart” 即ち「音樂」と、他の一つは“Language of mind” 即ち「エスペラント」である。……と説いた。……」

今の世の中で、この様な説明を聞くのは、何だか遠い夢の國の話の様な氣がしないでもない。——それは先づ別問題として、北米エスペラント協會が、ニューヨーク萬國博覽會を宣傳の機會に捉えた事は、當然とは言いながら賢明であつた。

S-ro Leahy も出席していた事だろう。其後 New York の samideano からワシントンの協會事務所は他に移した事を聞いた。

(以下次號)

全エス文 **TEMPO** 月刊雜誌
第7年 第6號

内 容

世界大戰と近東問題	
アダム以前	Louis Dormont
河 童 (3)	芥川龍之介作 野 島 彬譯
ふるさと (2)	島 崎 藤 村作 川 崎 直 一譯
新 刊 紹 介	
La Revuo Orienta	
Redakcia Kesto	
Pupo rebabi emos!	
Marŝas du kolomboj!	

定價 1 年 1.2) (送料共)

發行所 國際時事新聞社

京都市寺町夷川

電 2555 振替大阪 23404
41036



Mortis s-ro K. HUKUTA pioniro de la japana esp-movado

Tute neatend ta sciigo frapis la redakcion en malvarma tago de la komenco de marto.

Mort's s-ro Hukuta! Mortis la pioniro!

S-ro Fukuta fariĝis esperantisto 1906, en la memorinda jaro por la japana esperanto-movado, kiam oni havis la unuan esperanto-organizon de tiu ĉi lando. Oni povus diri, ke li est's herezulo en la japana esperantujo, kaj pro tio lia nomo ne estas sufiĉe konata laŭmerite de la pli juna

generacio. Tia aspekton donis kredeble lia karaktero ĝismendo'e fidela al siaj principoj. Estante herezulo, li tamen laboris por nia afero tre energie kaj restis ĝis la morto fervora samideano. El liaj notindaj laboroj, la plej granda estas la eldonado de la pure esperanta gazeto, "Verda Utopio" (Osaka, de 1920). Kvankam tiu ĉi laboro ne daŭris pli ol du jarojn, tamen per tio li sukcesis vaste diskonigi sciojn pri la japana vivo kaj kulturo al la esperantista publiko.

Ni volas aldoni unu anekdoton, kiu rakontas lian karakteron.

En la administracia membro-listo de nia instituto, oni rimakigas per ruĝaj grandaj literoj apud lia nomo, "NE-MEMBRO." Laŭ nia "legendo", kiam oni antaŭ dekkelaj jaroj petis al li pri "membro-kotizo", li severe protestis dirante, ke li estas "abonanto", sed ne "membro", ĉar jam antaŭe li, fariĝinte SAT-ano, deklaris, ke li ne partprenos plu en la neŭtrala movado. De tiu okazo, la rimarko restas, kvankam ni jam de longe ne vidas lian nomon en la SAT-jarlibro.

Li mortis la 3-an de marto de pulmito, havante la aĝon de 53 jaroj.

Malgraŭ printempo, la vento estas ankoraŭ forta kaj malvarma; ni tamen esperas, ke venos baldaŭ pli varmaj tagoj, kiam la verdaj folioj kovros lian eternan ripozejon.

福田國太郎先生を悼む

3月4日の正午里吉氏が突然新聞社に來訪され、福田國太郎先生の訃をお伝え下さった時はあまりの意外さに愕然としてしばし里吉氏の顔を見つめるばかりで、口が硬ばつて容

易に言葉が出なかつた。つい1ヶ月ばかり前平素の御無音をお詫びかたがた保険會社の方へおうかがいした時はあんなに元氣に愉快そうに話されていたのに。翌日は葬式だとゆうので、その夜里吉、進藤、川崎、藤間の5人が日本エスペラント界の元勳の柩に額づき最後の

別れを惜んだ。春浅き雨もよいの静けさの中に淋しく響く詠歌は惻々として胸を打った。

2月の中ごろから肺炎のため病床に臥しておられた先生は漸く快方に向われたところ突然心臓に衝撃を受け、あらゆる手當看護も空しく一家の深き悲しみのうちに3月3日溘焉として54年間のこの世の生涯を終られたのだつた。御令閨や令息、令嬢達の心情を思えば悲しくもまた痛ましき極みである。

先生はその一生の重要な部分をすべて Esperanto に捧げられた。Japana Esperantista Asocio の會員番號を見れば、先生は丁度100となつてゐるが、Asocio の誕生よりも舊い Esperantisto だつた。丘、黑板兩博士を除けば恐らく現存の Esperantisto 中一番舊かつたのぢやないかと思われる。Asocio 創立當時遠い宮崎にあつて O'Connor の Text Book を伴侶に孤獨な Esperantisto として過ごされた先生は、間もなく東京に轉職され、いまの元老諸公の若かりし日の忘れがたき同志の1人として俱に苦難の道を歩まれた。

Japana Esperantistujo の三傑、福田、小坂、千布の諸先生はそれぞれはつきりした個人的色彩を持つておられる。即ち福田先生の社會思想的、小坂先生の理想主義、千布先生の實利主義、これはそのまゝ運動においても三つの主流として現れている。また三先生の我々の中に占められる地位についていえば、小坂先生をローマ法皇とすれば、千布先生はギリシャ正教の代表者、福田先生はさしあたりマルチン・ルーテルとゆうところだろう。

福田先生は夙に社會問題に對する造詣が深く Esperanto も常にこれに關聯して思考されていた。その結果は Internacia Socia Revuo への不斷の寄稿となつて現れ、その後 SAT の創立されるや、忽ちこれが熱心な支持者となられた。先生の鬱然たる Esperanta Biblioteko は有名なものだが、これと並んで日本の初期社會運動に關する貴重な文獻が豊富に藏されている。

福田先生の最も著しい功績といへば、先づ第一に“Verda Utopio”の創刊に指を屈しなければならぬ。千布先生編纂並に註解の「エスペラント讀本及文範」の出版はこれにつぐ。

“Verda Utopio”は大正9年7月第1號を出した。日本の社會、文化、藝術、文學などを外國に紹介する四六判十數頁の Esperanto 文ばかりの雜誌で、小型ながら内容の豊富な實に纏つたものだつた。この小雜誌のため Japana Esperantistujo の地位が急に高まつて「日本人こゝにあり」と萬丈の氣を吐くことが出來た。福田先生の軒昂たる意氣や思ふべしだ。“Verda Utopio”社の同人はほかに相坂、森内、平野の諸氏があつたが、全く福田先生獨力の仕事といつていい。財政上はゆうにおよばず、こまかい雜務の末にいたるまで凡ど先生の手を経ていた。その時代未だ獨身でおられた先生は「僕の Edzino は Esperanto だ」といつて、ひたむきに邁進された。毎月の少なからぬ經費は先生の給料袋より支拂われた。小坂先生の言葉を借れば福田先生にとつては「嬉しい損失」だつたろう。偶々ロシアに未曾有の飢饉が起つて悲慘な報道が傳わつたので先生は率先“Verda Utopio”の名において救濟義金の募集を日本の samideanoj に呼びかけ、僅かながら取扱つた義金をロシアに送られた。小坂先生はまた大阪における舊き盟友の手になる“Verda Utopio”に對する援助を吝まらず RO の編輯に當つて絶えず福田先生の領分に立入らないよう心を配られたのは一つ的美談として記憶すべきであらう。しかしこの海外からも絶讃を浴びた雜誌も2年あまりで消滅したのは惜しかつた。

「エスペラント讀本及文範」大正11年2月發行は千布先生が數年間苦心の結果成つたものだけに出版當時はおろか、いまでも同類の出版物中最高峰に位する。この書はまた最も良心的な產物で、豊富な内容の源泉たる外國の eminentaj aŭtoroj 或は eldonejo に一々許可を請うて道德的並に法律的過誤をいさゝかも犯すところがなかつた。そのころ千布先生の努力の成果を生かしてくれる篤志家もなかつたのを福田先生が非常に惜んで損失をも顧みず敢然出版を引受けられた。こゝにも美しい同志愛の現れがある。

福田先生は大正7年頃大阪に轉勤され、それからずつと二十幾年間現在のお宅におられた。その間、昭和3年 OES が生れ、進藤、西田、

Militmortis juna samideano

s-ro Kaname Kanzya, la 4-an de januaro 1939

甘蔗要君を悼む

昭和14年1月14日であつた。

新聞紙上に並んだ小さい幾個かの戦死勇士の肖像の中に「甘蔗上等兵」の名を見付けた時、何か冷いものが鋭く胸を流れる様な思いであつた。應召後間もなく古閑部隊に屬して出征し、大別山中の激戦に病を得て再び起たず、遂に1月4日30歳を一期として野戦病院の冷い褥に護國の花と散つたのであつた。

甘蔗君がエスペラントを始めたのは確か昭和6年の夏で、彼が大谷大學豫科生の時であつたと思う。初等講習を學内で終つてからずつと續いて、花やかだつた高倉會館時代の會

大崎、川崎とゆうような錚々たる信頼するに足る後繼者を得て第一線から退かれるまで、常に大阪における Esperanta movado の最高指導者だつた。大阪高商(現商大)のエスペラント會創立をはじめ醫大、高工(ともに現阪大)、外語などの grupo 結成に盡力されたのみならず、社務を終つて憩う間もなく、鎗屋町のキリスト教會その他の講習會を殆ど毎夜のごとく指導されていた。鎗屋町の kurso では komunista afero の大立物三田村四郎が熱心に講義を聴いていた。日曜はまた近村の農村青年を集めて自宅で教授された。引退後といえども熱意においても少しも變りなく近所に住んでおられる里吉氏と出勤の途上出会う度毎に電車の終點までいつも Esperanto で會話をされていた。

先生は所信に基だ忠實で主張を決して枉げられなかつたけれども偏狹とゆうようなものは微塵もなかつた。反對にあらゆる人を受け入れる寛容性をもつておられた。その悠揚せまらざる大人の風格は接する人に春風駘蕩の感を與えた。Esperanta movado の過程において Esperanto そのものとはなんら關係のない個人的感情の對立激化はついに運動を危険に導くことを我々は屢々經驗する。Esperantisto として深く戒心を要すべき點だが、大阪のエスペラント界にもそうゆう時代があ

合に毎週缺かさず出席し、朗かに皆を笑わせていた彼であつた。大體語學は得意の方で學校の成績もよかつたらしい。臨大の對本君と彼とは仲もよかつたが、共に高倉で出來た出色の同志であつた。然し會話の勇敢な割に、書く方は餘りやらなかつた様に覺えている。

其後學部へ進んでからも卒業後も、交通は熱心であつた。主としてエス語書籍の蒐集に力を注いでいた様であつた。私はその書物を見せて貰うために2回程訪問したのみであつたが、彼は随分何回も私の處に訪ねて來てくれたものだつた。

昭和11年の9月であつた。交通の友ツスベルト嬢がオランダから遙々來朝し、暫く彼

つた。先生の人格は常に諸流に超然として Esperantisto としての行藏を誤られなかつた。そのうち先生の衆望に加うるに進藤、西田兩君の勇敢なる闘志をもつて區々たる小乗論を壓して遂に今日の OES の確固たる基礎が出來上つた。

先生の Esperanto に關する百科全書的知識も有名なもので、滾々として汲めども盡きぬ話題の豊富さに思わず夜の更けるのも知らなかつたとは、先生のお宅を訪問した後輩の等しく洩らす「愉快なる嘆聲」であつた。

先生は思想的には anarkismo を受け容れられた時代もあり、のちには東洋的な虚無に轉化されたこともあつたが、御令閨との間に1男2女をもたれる幸福な家庭の patro として、また共同火災保險會社の再保險課長としての現在よりすれば、そんなことは多感な日のなつかしい追憶にのみ残つていたかも知れない。最近の先生は全く圓熟した良識ある一個の好紳士以外の何ものでもなかつた。

私の出勤途上に高々と聳りたつ共同火災の白堊の建物は、先生がその中におられたが故に親しみも感じ足もその方に向つた。いま先生の死によつてつながりが斷たれたと思うとその建物も急に冷然としたよそよそしいものに變つてしまつた。しかしその内部には多年恪勤精勵の範を垂れた有能練達の幹部の卒然

の寺に滞在していた事があつたが、更に翌年の10月來朝し、再び甘蔗君の所に身を寄せて靜かに日本語と生花とを學んでいた。國際的な面倒もあつたであろうが、宣傳に使われるのは厭だとして、他に會うのを極力避けていたが爲めに、ツ嬢が滞在する様になつてから却つて私達は疎遠勝ちに過していた。然しツ嬢と彼とは突然私を訪ねて暫く宛語つて行くのであつた。

勿論デマであろうが、「國際愛」とゆう見出しで新聞種にまでなつた程であつて、短かい彼のエスペランタ・ヴィヴォに於て、ツ嬢の滞在はそれを一層花やかに彩つていた。

ツ嬢は實に淑かな好感のもてる人柄であつたが、悪い時代に滞在する運命を氣の毒に思つていた。甘蔗君の應召後久しく病のために悩んでいたが、快方に向ふと共に寒い日本の

家造りを逃げる様に、13年の12月半頃故國へ發つた。

親しくツ嬢を訪ねて別れを惜しみ、彼女の一人旅を慰めたのに、1ヶ月と経たない翌月の半にこの悲しい訃報に接したのであつた。ツ嬢の船は恐らくまだ印度洋を航行中の頃であつたに相違ない。

先日も書物のことで甘蔗君の所を訪ねたのであるが、まだ書齋も書架も彼の生前の儘であつて、何か目頭が熱くなるものがあつた。期待をかけていた若い同志を失つて、私は今なお限りなく痛ましい。日支事變を契機として日本の國際的地位が高まると共に、綠星旗は却つて日本から西へ進められねばならなくなるのではなからうか。惜しい同志を失つた事が返す返すも忘れられない。

柴山 慶

たる長逝によつて深き憂愁が漲つてゐることであろう。更に家庭においては悲痛の涙は乾く違もないであろう。だが、それにも増して日本のエスペラント界は元老の死に對して深く哀悼の至情を捧げる。

あいまいや福田先生は我々の中にない。されどその功績は永遠に残る。我ら Esperantisto 一同は先生の靈の前に一段の奮闘を固く誓うものであります。 藤間常太郎

福田さんの憶出

紅茶がとても好きだつた。自分で入れてがつつ呑んだ。

「つまりその」が口ぐせであつた。演説されたとき、それが何十回でたとか計算したいたずら者もあつたとか。

Zamenhof の Unua Libro のロシア語版(ただし1888年の再版)とフランス語版(1887年)をもつておられた。最初は誰にでもよく貴重な本を貸しておられたが、あるときから「これからは本は貸さない」と宣言され、本全部もお宅のどこか、來客の目のつかないようなところへしまわれた。これはどうも借る人の中に返却しない人があつたので、貴重な資料をちりちりにするのを Esp. 界全體のためにおしまれたためであると思う。

日本史を研究する學者は言う、「織田信長は我々歴史家に大きな慈善をほどこした。彼は叡山を全部焼拂つた、それで文獻がなくなつた。あんなものがいま残つていたら、歴史家の骨折は大したものだ。」福田さんは昔から Esp. に關するものはどんなものでもみんなとつておかれた。ポスターのようなものから手紙類などはもちろん。けだし日本 Esp. 運動史の研究家に多くの仕事を與える焼けない寶庫である。

おだやかな、親切な人ではあつたが、自分に對して加えられた他人の攻撃についてはいつまでも忘れず、機會が與えられたときは、かなり辛辣にしかえしされた。大阪 Esp. 運動史にもこれがあつたことを私は見た。

Enciklopedio de Esp., Budapest の日本の部をつくるとき、日本名士の生年月日をみなそれぞれ本人に問合したが、福田さんはどうあつても返事してくれない。「おれなんか載せなくてよい」。傳記に生年月日を省くことはできないので大へん困つたが、西田英夫君が最後に「どうしても言わねばこちらで調べる方法がある」と電話で ultimato をだしたら「そんなに川崎君がこの問題で困るなら、おれも困る」と書いてくださつた。

Sino の話し:「電力不足で會社で寒い思いをした」。これでかぜをひいたらしい。

川崎 直一

(201) 17

permesitaj, kaj prosperis kaj malaperis; tiamaniere la grupoj de junaj “filomatoj” estis formitaj kaj ankaŭ malaperis; la juna, idealista Toman Zan restargis ĝin kaj el ĉiuj fakultatoj li elektis dekdu studentojn al tiu ĉi nova grupo. Estis inter ili ankaŭ la advokato Malowski, la konata filologio; Mickiewicz, Cseczot, kompetentulo pri la blank-rusaj popolkantoj, Sezowski, kaj aliaj, ili kunvenis ĉiumonate, faris paroladojn, kritikis novajn librojn, diskutis—ĉio en la nomo de “scienco” kaj “virto” kaj ankaŭ “patrujo”, jurante servi ĝin lojale. La elspezojn de tiu ĉi societo kovris ĉefe Mickiewicz, kiu aranĝis la programojn, gvidis la diskutojn kaj amuzis per sia poezio.

Liaj unuaj poemoj estis sub la influo de Voltaire en penso kaj tendenco, kaj sub Trembecki, en formo. Li tradukis “La Pucelle”, sed tiu ĉi traduko estis libera kaj studa, poste “Patatoc” (de la eltrovo de Ameriko ĝis la litovaj okazoj). La unua parto pri Ameriko estis skribita de la poeto; li planis skribi tragedion “Demostenes”, sed li publikis la poemon “Urba vintro” (1818), temantan pri la plej simplaj aferoj, teo, bilardoj, en la plej artaj metaforoj, aŭ la rakonton skribitan en prozo, “Zywila” (1819) pri litova virino, kiu mortigis sian amaton, perfidulon al sia lando; li neniam publikis rakontojn en poezio (en la maniero de Voltaire), li transportis fremdajn tendencojn sur la litovan teron. Fine li skribis poezion en specialaj okazoj. Kiel “bankedoj” por liaj “studentaj” amikoj, la universitataj jaroj pasis rapide inter la amikoj kaj naivaj amaferoj. La plej grandan impreson donis al li Maryla Wereszczaka, junulino el riĉa familio (kiu baldaŭ edziniĝis al Grafo Putkamer), kun kiu li konatiĝis, dum la restado en ŝia domo, en Tuchanowicze (1818), kien kondukis lin Toman Zan, la instruisto de ŝia frato; ŝi estis bone edukita, simpatia junulino, kiu amis la polan kaj novan francan literaturon.

La vojo de vivo de la poeto ŝanĝiĝis, kiam en septembro, 1819, en malgranda urbo Kowno, li akiris la postenon de instruisto de la latina lingvo, kaj tie li instruis la “peze pensemajn litovajn cerbojn” inter grupo da profesoroj ne tiel bone elektitaj. Lin en katenon de sufero kaj devoj, konsolis leteroj, libroj donitaj de la Wilnaj amikoj. En Kowno li forĵetis por ĉiam la francajn supraĵojn, kaj falis en frezezan amon al Maryla, baldaŭ la grafino

その代表的傑作
Florian, Jean Pierre Claris
de (1755-94) ラ・フォンテ
ーヌ以後最も注目すべきフ

ランスの寓話作家
romanco 一種の物語詩
Wilno (Vilno) 當時リトワ
ニアの首府

je la spezo de la regi-
staro 官費で
filologo 言語學者
filomato 好學者

Putkamer. Kun la helpoj de siaj amikoj, li publikis en 1822 en Wilno la unuan volumon de poezio, kaj en 1823 la duan. Ili ambaŭ faris revolucion, kiu ŝanĝis de la klasiko al la romantiko. De kie venis tiu ĉi reformo? Kion la juna litovo komprenis en la romantiko?

La romantiko de ĉiu nacio havas diferencon formon; la malplej impresita estis en Rusujo, kie estis neniu grundo por ĝi, kie ĝi devis esti miksitaj kun ekzotiko; kaj la plej en Polujo, kvankam por tiu ĉi nacio la feŭdaj kruckavaliroj kaj la adorado al virino estis tute ne konataj. Sed la romantika sento havis inklinon al la kamparaj loĝantoj; el iliaj legendoj ĝi verkis baladojn kaj romancojn, ĝi tre zorgis iliajn morojn kaj modojn kaj kun egala firmeco ĝi kulturis "individuecon", de loko al loko ĝi forĵetis la facilecon de kutimoj, tradicioj; elektis per si mem formon, kiu estis propra al la tenenco; ĝi rekonis nenian rajton, sed nur sin mem.

La juna poeto eniris tiun ĉi vojon. Li ekkonis la germanan poezion de Bürger, Schiller, Goethe, Sean Paul, kaj li ekkonis poetikan regionon, diferencon de tiu de la Versajla pulvoro kaj ruĝo, de mokemo de Voltaire, de la seka racionalismo; la voĉo de Brodzinski por la nacieco en poezio, eĉ "Maryla" montris, kio devas okupi la poeton. Tial li serĉis, li legis, rememorigis al si, kio devas okupi la poeton. Tial li serĉis, li legis, rememorigis al si, kio devas vekti la imagon kaj senton, kaj li trovis ilin en kantoj kaj legendoj, kiuj cirkulis en malpli altaj klasoj, kaj ĉar la litova grundo estis tre proza, en la limoj de legendo, li serĉis temojn en aliaj polaj legendoj, kiel "Madame Twardowska" aŭ en aliaj kiel "Toluby" aŭ "Powzittaty" pri infanoj kaj rabistoj, aŭ li mem kreis imitante fremdajn ekzemplojn, "Swites'anka", kun amo—opera trio. Baladoj kaj tre sentimentaj romancoj havis revolucionan karakteron; ilia lingvo ne celis ekzaktecon, sed esprimriĉecon, kaj li ne zorgis pri la provincialismo, kio kondukis al la venko de varsoviaj klasikoj. La temoj kun nimfoj (litovaj, ne klasikaj), fantomoj, demonoj instruis, ke ekzistas sur la tero aĵoj, pri kio eĉ la filozofoj ne povas sonĝi. En realo, ne tre multe estis populareco en tiuj kantoj; la topo, kiu la poeto prenis de

Voltaire (1694-1778) フランス最大の啓蒙文學者。その著 "La Pucelle d'Orléans" はジャンヌ・ダルク

を罵った詩
romantiko ロマン主義
ekzotiko 異國趣味
kruc'kavaliro 十字軍騎士

ba'ado 約 30 行からなる形式の詩
Bürger, Gottfried August (1748-1805) ドイツの詩人

tempo al tempo, tute esceptis ĝin, sed ne la aŭdacon al la eraro, kaj kelkaj pensis, ke ĝi estas klara kaj ordinara, aliaj, ke ĝi estas patriota kaj bela.

La unua volumo de baladoj kaj romanoj priskribas la mondon de legendoj, la dua iom pli originalan kaj belan — la kanto de individuismo. La forto de la trompita amo rompis la koron de la poeto, kiu estis indiferenta pri la mondo kaj ĝiaj devoj, mordita de sia propra malĝojo, nekapabla batali, revanta la “iutagon”, por batali por triumfoj; la poeto kantis pri sia malĝojo, ne imagan, kaj li rompis la korojn de la legantoj per plendo, konfeso de amanto, kiu perdis sian amatan, kiu falis de la ĉielo de ekstazo en la inferon de malĝojo kaj malespero. Estis neniuj alia vojo ol morto aŭ sinmortigo, per kiu vojo la herooj de Goethe kaj Mme Crudeur finis siajn vivojn; kaj por eviti la saman situacion, la poeto havis originalan kaj tre riskeman ideon. Kiel sinmurdanto, li volis konfesi sin pri imaga plezuro kaj vera sufero; li volis averti kaj instrui per si mem la malprudentajn, kiel patrinon portita al la lumo, el la vojo de pasio. Li eltrovis vojon, kaj diris, ke en la nokto de “Dsiady” la tombo estas malfermita, kaj tiuj, kiuj ne povas trovi pacon en ili, vagas sur la tero, rememorante siajn dolorojn, koleron, kaj malbonon. “Dsiady” estas populara festo, sanktigita de la eterna tragedio, tial oni estas devigita restarigi kaj poemigi la detalojn de la ceremonio, kvankam oni image kreis tiujn detalojn, kiuj havas nenian rilaton kun realeco. Tiamaniere, la du unuaj partoj de “Dsiady”, markita dua kaj kvara, estis verkitaj, ĉar la poeto lasis por si mem liberan lokon por la disvolvigo de la temo (en la fakto li poste skribis la unuan parton). La dua parto enhavas priskribon de pseŭdklasika ceremonio, la kvara konfeson kaj memdefendon de la poeto Gustaw antaŭ la pastro-instruisto. Ĉiuj antikvaj erotikismo, volupto aŭ banalo, simpleca aŭ aŭdaca, forestingiĝis antaŭ tiu ĉi vulkana sento, vipo, malespera, maldolĉa kaj ebriga, kvankam la rigardo de la religia cenzuro to devigis lin reteni sin mem. Por montri la universalecon de sia talento, la poeto instruis la didaktikon, instruis “Wareab”, li skribis rakonton “Grazyna” el la kolorriĉa mezepoko, el la tempo de la bataloj de litovoj kun la kruc-militantoj.

(Daŭrigota)

Schiller (1759–1805)

Goethe (1749–1832)

Sean Paul (1763–1825) ドイツの初期ロマン派散文詩

人

versajla pulvoro kaj ruĝo

ヴェルサイユ宮廷流の脂粉
(の香に満ちた派)

racionalismo 合理主義

provicalismo いなか風

didaktiko 教授法

SONĜOJ EN DEK NOKTOJ

de Soseki NATUME

La dua nokto.

Jenan songon mi songis.

Forlasinte la ĉambron de la supera bonzo, mi revenas per la koridoro al mia ĉambro, kie mi trovas la lampon pale lumantan. Fleksante genuon sur kusenon mi ordigas la meĉon. Florsimila debrulaĵo senbrue falas sur la cinabre lakitan tableton kaj subite fariĝas hele en la ĉambro.

La pentraĵo sur la glitekrano estas tiu de Buson*: Ombrosimilaj salikoj hel- kaj malhelkoloro pentritaj staras tie kaj ĉi tie; klinante ĉapelon fiŝkaptisto iras kun frostiganta mieno sur digo. En la niĉo pendas bildpendaĵo, sur kiu Monĵusro en la maro estas pentrita. Incenso preskaŭ konsumita ankoraŭ ne ĉesas fumi en ĝia malluma angulo. La vasta templo restas silenta kvazaŭ senhoma. Suprenrigardante sur la plafonon mi trovas rondan lumon, ĵetitan de la lampo, kvazaŭ vivanta.

Unu genuon stariginte, mi levas la kusenon per la maldekstra mano kaj enŝovas la dekstran sub ĝin, kie mi ĝustaloke trovas la celitan. Trankviligite de tio mi remetas la kusenon kaj peze sidiĝas sur ĝi.

— Vi ja estas samurajo, — diris la supera bonzo. — Neeble estas, ke vi ne povas atingi la religian vekiĝon, se vi estas vera samurajo! Ne atingante ĝin tamen por longa tempo, vi certe ne estas vera samurajo, — li ankaŭ diris. — sed rubo de homo!... Ho, vi koleras, — li mokridis. — se vi sentas vin ofendita, alpritu al mi nur pruvon, ke vi atingis la vekiĝon! — li fine tiel diris kaj abrupte turnis sin flanken. Ho, maldece!

Antaŭ ol la horloĝo en la niĉo de la najbara ĉambrego batos la sekvantan horon, mi nepre atingos la religian vekiĝon. Atinginte ĝin mi ĉi tiun vesperon ankoraŭfoje vizitos la bonzon kaj interŝanĝos ĝin por lia kapo. Se mi ne atingas ĝin, mi ne povas senvivigi lin. Mi nepre devas atingi la religian vekiĝon. Mi ja estas samurajo.

Se mi ne povos atingi la religian vekiĝon, mi min mortigos. O endita samurajo ne povas vivi plu. Tiam voŝonte mi min mortigus.

Kiam mi tiel pensas, mia mano ankoraŭfoje sin etendas senintence sub la kusenon, kaj eltiras la ponardon en ruĝe lakita ingo. Per la tuta forto mi prenas la tenilon kaj forigas la ruĝan ingon; la malvarma klingo subite

* Fama hajkisto kaj ankaŭ pentristo en Japanujo. (1716-1783)

brilas en la malhela ĉambro. Mi nun eksentas, kvazaŭ io terura senbrue forkuras el mia mano kaj atingas la pinton de la klingo, por koncentrigi sian sangscifecon ĉe unu punkto. Vidante, ke la akra klingo estas kvazaŭ perforte kondensita kiel pinglopinto, por brili ĉe la pinto de la ponardo, mi subite ekvolas per ĝi trapiki. La sango de mia tuta korpo kolektiĝas en mian dekstran manon kaj la tenilo fariĝas gluema. Miaj lipoj tremetas.

Remetinte la ponardon en la ingon kaj altrinte ĝin al mia dekstra flanko mi nun sidas en religia meditado. — Ĉio estas vantaĵo! — Tyosyu* diris. — Kio estas vantaĵo? Bonzaĉo! — Mi kunpremas dentojn.

Kiam mi forte kunpremas la mueldentojn, arda spiro fortege eliras el la nazo. La tempioj spasme doloregas. Duoble large mi malfermas la okulojn.

Mi vidas la bildpendaĵon, la lampojn, la tatamojn** kaj ankaŭ la senharan kapon de la bonzo tute klare. Mi aŭdas eĉ la voĉon, per kiu li mokridis min tra sia buŝego. Tiu maldeca bonzaĉo! Mi nepre devas senvivigi tiun senharulon. Mi nepre devas atingi la religian vekigon. — Vantaĵo! Vantaĵo! — Mi ripetas en la fundo de la buŝo. Meditante pri la vantaĵo, mi tamen flaras la odoron de l' incenso. Tiu senvalora incenso!

Per pugno mi subite bategas mian kapon kaj knare kunpremas la mueldentojn. Elŝvitas ĉe ambaŭ subbrakoj. La dorso fariĝas rigida kvazaŭ bastono. Genuoj doloras. — Lasu, eĉ se la genuoj rompiĝu! .. mi pensas; ili tamen ne ĉesas dolori. Kiel afliktite! La vantaĵon mi ne facile ekaptas. Apenaŭ mi ĝin ekaptas, mi jam eksentas doloron. Mi sentas min koleta, ĉagrenita, eĉ ofendita. Larmoj gute eliras. Mi ekvolas eĉ alĵeti mian korpon kontraŭ ŝtonegon por pece disrompi miajn ostojn kaj karnojn.

Mi sidas senmove. Enfermante en mia brusto ion netolereble korpreman, mi sidas senmove. Mi sentas min, kvazaŭ tiu korprema, vane serĉante sian eliron, suprenpremas de profunde la karnojn de mia tuta korpo por elŝpruci el poroj, ĉiuj tute ŝlosita.

Mi intertempe fariĝas duondelira. La lampo, la pentraĵo de Buson, la tatamoj kaj la bretaro ŝajnas al mi nun kvazaŭ ili ne ekzistus, kvankam ili efektive ekzistas. La vantaĵo sopirita ne tamen volas prezenti sin. Mi eble nur sidas sencele. Kaj ĝuste tiam la horloĝo en la najbara ĉambrego ekbatas unu.

Mi subite reakiras la konscion kaj tuj etendas mian dekstran manon al la ponardo. Kaj la horloĝo batas la duan. (*daŭrigota*)

— Trad. de Eskurapida Klubo —

* Fama bonzo de zen-sekto en Japanujo.

** Matoj sternitaj sur la tuta planko en la japanaj domoj.

諺集解義

5

65.—(a) Sen regalo ne estas balo. (b) Ĉe tablo malplena babilo ne fluas. (c) Malsata stomako orelon ne havas. (ĉ) Malsatulon la fabloj ne nutros. (d) Tablon ornamas ne tuko, sed kuko. (e) Ne karesu per mano, sed karesu per pano.

(a) 饗應がなくば舞踏會は無。 (b) 空っぽの食卓についていてはおしやべりもはすまぬ (流れ出ぬ)。 (c) 餓えた胃袋には耳が無い (空腹では人の話も耳に入らぬ)。 (ĉ) 空腹な人を寓話は養わぬ (話では腹はふくれぬ)。 (d) 食卓を飾るは卓布に非ずしてお菓子。 (e) 手で愛撫せずパンで愛撫せよ。〔花より團子〕

【註】 (a) ne estas = ne ekzistas. (ĉ) Fabelo イソップ物語など教訓を寓した小説, fabelo 子供向のお話, お伽噺。 (d) ne は打ち消すべき言葉の前に置く。茲には『飾るのは卓布ではない』と tuko を打ち消す。 Tablon ne ornamas kuko とすれば『食卓を菓子が飾らない』と ornamas を打ち消す。

66.—(a) Kun kiu vi festas, tia vi estas. (b) Eĉ plej bonan ŝipon malbonigas la ventoj. (c) Kiaj kolegoj, tiaj kutimoj. (ĉ) Kun kiu vi kuniĝas, tia vi fariĝas.

(a) 汝は汝が共に交歓する者の様なそ

んな人である (交友を見ればその人がどんな人かわかる)。 (b) どんなよい船でも風が悪くしてろう。 (c) 交友が交友なら習慣も習慣。 (ĉ) 汝は汝が交わる者の如きその様な人になる。〔朱に交われば赤くなる〕。

【註】 (a) 詳しくは *Kia estas tiu, kun kiu vi festas, tia vi estas*. 『その者と汝が交歓する者 如きその様な者で汝はある』 (b) 『どんなよい人間でも (悪友に交つて) 悪い事に當る毎に悪くなる』 意。 (c) *Kia...*, *tia*: 48 参照。 (ĉ) *kun'igi* 一緒になる, (仲間と) 交わる。

67.—(a) Rigardi malafable. (b) Plenblovi la lipojn.

(a) 無愛想に (人を) 眺める〔佛頂面をする〕。 (b) 唇をプツとふくらまして吹く〔頬をふくらす〕 (いずれも不機嫌, 怒った所作)。

68.—a) Ĵeti perlojn antaŭ la porkojn. b) Ne por lupo estas supo.

(a) 豚の前へ眞珠を投げてやる〔猫に小判〕。 (b) スープは狼向きのものではない。

69.—*Kiu batas edzinon, tiu vundas sin mem.*

妻を打つ者は己自身を傷くる者なり。

70.—(a) Helpas krako kontraŭ atako. (b) Vazo rompita longe sin tenas. (c) Senfortuloj longe vivas.

(a) メリメリツと音を立てる (悲鳴) のは攻撃を防ぐ役に立つ。 (b) ひび割れた瓶は永く保つ。 (c) 弱い人は長く生きる〔柳に風折れなし〕。

【註】 (a) *Helpi* (誰に) 助力する, 助けとなる, 役に立つ。

Mi helpas al vi. 御助力いたしましょう。
Jam nenio (al ni) helpas. もう駄目だ。

Venu, helpu al mi min levi. 手傳つて起して呉れ。

(b) sin teni の用法: (ア) Ili tenis sin reciproke je la manoj. 手に手を取り合つた(握える)。(イ) Bone estus, se vi tenos vin je unu afero kaj de alia afero vi ne forprenos vian manon. 一つ事にかじりつきその上他の事からは手を放さぬがよい(かじりつく)。(ウ) Mi ne povis plu min teni sur la piedoj. もう立つて居られなくて倒れそうになつた(身を支える, 保つ)。(エ) La rideto ne povis sin teni sur ŝia buŝo kaj la piedoj apenaŭ retenis larmojn. 微笑は彼女の口邊にもち切れ(保たれ)なくなり眼は涙の瀬を切りそう。(オ) Via filo sin tenis, kiel brava batalisto. 御子息は勇士として立派な御態度でした(ふるまつた)。(カ) Li longe sin tenis kun sia amiko. 友人の處に長い事居候(生活する)。本文(b)の例は(エ)の用法。尙お(カ)の用法は甚だ稀。

71.—(a) Suferinto pli valoras, ol lerninto. (b) Ni forgesas averton, ni memoras la sperton. (c) Batita komprenas aludon. (ĉ) Brogita eĉ sur akvon blovas. (d) Korniko vundita propran voston timas. (e) Saĝa hundo post la vundo.

(a) 苦しい目に遇つた體驗者の方が机上で學問した者よりも値打がある。(b) (耳で聞いた) 警告などは忘れるが體驗は覺えているもの。(c) なぐられた者はヒントの片言を聞いても了解する。(ĉ) 舌をやけどした者は水をさえ吹く「羹にこりて膾を吹く」。(d) 傷いた鳥は自分自身の尾をさえこわがる。(e) 傷受けたあとで利口な犬になり。

【註】 (a) suferi 苦しい目, 不幸, 病などを身を受けて苦しむ; ĝui 幸福, うれしい目, 愉快な事などを享けたのしむ。(ĉ) Brogi 熱湯でやけどをさす; brul'vundi 火で火傷を

さす。Blovi sur ion いきを吹きかける: La homo blovis sur siajn frostigitajn fingrojn. こぶえた指にいきを吹きかけた。(d) Korniko: korvo の一種。

72.—(a) Vojon batitan herbo ne kovras. (b) Ŝlosilo uzata ruston ne konas. (c) Akvo kura — akvo pura.

(a) よく踏み固められた道に草は生えぬ(被わぬ)。(b) たえず使用される鍵は錆が生ぜぬ(錆を知らず)。(c) 流水は清水。「稼ぐに追付く貧乏なし」。

【註】 (a) Pied'bati (地を足で打つ) 足ぶみする, (足でなぐる) 蹴る。Ni aŭdas la piedbatadon de soldatoj kaj ĉevaloj en la malproksimeco. 遙かに聞こゆる兵馬の足音。(c) Akvo kura = akvo fluanta 流水。靜水 akvo staranta.

73.—(a) Kio fariĝis, jam ne refariĝos. (b) Kio pasis, ne revenos. (c) Kontraŭ faro farita ne helpas medito. (ĉ) Al fiŝ' kuirita jam akvo ne helpas. (d) Ĝi helpas kiel hirud' al mortinto.

(a) もう起つて(成つて)了つたことは再び元にもどらぬ。(b) 過ぎて了つたものは還らぬ。(c) もうして了つた行爲に對しては熟慮も役に立たぬ。(ĉ) 料理されてしまつた魚にはもう水は役に立たぬ。(d) それが役に立つこと蛭が死人に役立つ如し(後の祭で何にもならぬ)。「覆水盆にかえらず」

【註】 (a) Esti が『(何々)である(有)』と『(何が)ある(在)』なる意ある如く fariĝi は(ア)『(何々)になる』=igi, (イ) (何が) 起る = esti farita. 然し結局する處同じ意味に歸する: Fariĝis uragano. 暴風雨になつた(イ)は暴風雨が起つた)。「參考」 Leviĝis vento. 風が起つた(高まつた)。Faro 行爲, fariĝo (起つた) 事件, 出來事 (=okazintaĵo)。

74.—(a) Kiu bati deziras, trovas bastonon. (b) Por ŝafon formangî, lupo trovas pretekston. (c) Por hundon dronigi, oni nomas ĝin rabia. (ĉ) Muso la katon ĉiam ofendis.

(a) 人を打たんと欲するものは桿棒を見出す。(b) 羊を喰つて了うためには狼は口實を作る(見出す)。(c) 犬を水に投げ込んで殺すためには人は之を狂犬だと云うことになる。(ĉ) 鼠はいつも猫を怒らせたと云うことになる(猫から云えばいつも鼠が失敬な奴だから喰つたと云う云い譯)。

【註】 (b) イソップ寓話にある話: 川で水を飲んでいる ŝafido を見て lupo は何とか口實を作つて食つてやろうと思い、狼『コラおれが飲もうとする水を汚し居るな』羊『いえ私の方が川下に居ります』狼『貴様は昨年おれの悪口を云つたそうだな』羊『いえ私は今年の春生れたばかりです』狼『そんならそれは貴様の母親じやろ。どつちにしても兎に角けしからん奴だ』と云つて羊にとびかゝて食つて了つたと云う話。For'mangî (mangî してそのものを for する) 食いつくす、平げる。Inter ni du ni fortrinkis (=eltrinkis) botelon da viskio. 二人でウイスキー一本平げた。(ĉ) Muso 家に住む白い鼠; rato 野に住む黒いドブ鼠(但し日本では musoj は居らず, ratoj が家に住んでいる)。Ofendi 人に對し悪い事をしたり云つたりして人を怒らせる、侮辱する。訴訟などで ofendito 原告, ofendinto 被告。

75.—(a) Sieĝi ies pordon. (b) Elbatadi ies sojlon.

(a) 或人の戸口を包圍攻撃する。(b) 度々訪門して或人の闕をすつかり蹴外す(度々しつこく人の處に押しかけて訪ねること)。

(210) 76.—(a) Batadi kiel fiŝo kontraŭ

glacio. (b) Barakti kiel fiŝo ekster la akvo. (c) Turniĝadi kiel serpento. (ĉ) Kuradi kiel venenita muso. (d) Kurbiĝadi kiel diablo en akvo benita. (e) Bataladi kontraŭ la sorto.

(a) 魚が氷にぶつかつてはねる様にはねまわる。(b) 水から出た魚の様にもがく。(c) 蛇の様にのたうつ。(ĉ) 毒をのまされた鼠の様に馳けまわる。(d) 祝福された聖水の中へ入れられた悪魔の様に身をくねらしてもがく。(e) 運命に抗戦する。〔七轉八倒; いずれももがく形容〕。

77.—(a) Bastono batas, bastono resaltas. (b) Vento sendita tondron reportas.

(a) 桿棒は打つ、桿棒ははね返つて来る。(b) (人の處へ) 遣わした風は雷を持つて歸える。〔動には反動あり〕。

【註】 (a) re'salti はね返る, re'brili 反映する, 照り反えす。(b) re'porti 持ち戻る; raporti 報告する(=英語 report)。

78.—Per mono, ne per mano punu vilaĝanon.

田舎者(村人)を罰するには金を以てせよ、手を以てすべからず。

79.—Amo kaj puno loĝas komune.

戀と罰とは寄合い世帯(戀ゆえの罪は犯しやすい)。

80.—(a) Oni batas, malkaresas, kaj eĉ plori ne permesas. (b) Batanto povas argumenti, sed batato devas silenti.

(a) なぐるやら、こずき廻わすやら、そしてその上泣くことさえも許さぬ。(b) なぐる方は理窟をこねてもよいが、なぐ

られる方は沈黙して居れ。(強者は横暴なもの)。

81.—(a) Oni batas per vipo por ke sentu la r'ipo. (b) Oni batas ne la aĝon, sed la vizaĝon.

(a) 鞭で打つのは肋骨に痛さを感じしめるため。(b) 打擲は顔を打つので年齢を打つのではない(年がゆかぬせいとか年甲斐がないとかをせめるのではなくて肉體に苦痛を與えるのが罰の根本。罰は骨身にこたえしめて効目がある)。

82.—(a) Malpaculon ĉiu batas. (b) Mordantaj hundoj kuras ĉiam kun vundoj. (c) Fremdan dorson bastoni — ankaŭ sian doni.

(a) 喧嘩早い奴は皆んながなぐる。(b) 人を噛みつく犬はいつも傷を受けて(走りまわつて)いる。(c) 人の背をなぐるのは自分の背をなぐつて貰うために出す様なもの。

【註】 (a) Paculo 平和な人, 温和な人; malpaculo 喧嘩師, 人と不和勝ちの人。(c) Fremda (自家の人でない) よその(人), 他(人)の, (自國の者でない) 他所者の, 外國の(=alilanda), (従つて自分が) 知らぬ(人), 未知の(者)。Bastono 桿棒, bastoni 桿棒でなぐる。【類例】 Kanono 大砲, kanoni 砲撃する, martelo 鎚, marteli 鎚で打つ, broso ブラシ, brosi ブラシで刷く。Doni 與える=(さあ打つて下さいと) 出す。Al leono ne donu manon. 獅子に手を出すな(危い眞似をするな)。

83.—(a) Petro parolas sen direkto, sed Paŭlo konjektu. (b) Ŝerce dirite, cele pensite.

(a) 太郎の話は筋道が立たぬが, 次郎は之を察してわかつてやれ。(b) 笑談にまぎらして云われた事だがその目當と

する通りに考察される(笑談から駒を引き出せ)。

【註】 (a) Direkto (向うべき) 方向; direkto (その方向へ) 向ける, 向けて行かせる; direktilo (方向を定める) 舵; sen direkto ゆくえも定まらず, しどろもどろに。Konjekti (わからぬことをこうだろうと推量して結論を出す) 推測する, おしはかる。

84.—(a) Venkiton oni ne batas. (b) Pekinto pentas, kolero silentas. (c) Ne iras hakilo al kolo humila. (ĉ) Peko mal-ova perdas pekecon. (d) Filo konfesis — patro forgesis.

(a) 負けた人を打擲せず。(b) 罪ある者が悔い改めれば怒は沈黙して之をせめぬ。(c) 頭を下げた頸に首切斧は下されぬ(行かぬ)。(ĉ) 古い罪はその罪たるものが失せている。(d) 息子が白状した, 父爺は忘れてしまふ[悔いたる者をせめるな]。

【註】 (a) Venki 人に勝つ, 人を負かす; venkinto 勝つた人, venkito 負けた人(負かされた人)。(c) Humila (人に對して) 頭の低い, 腰の低い, へり下つた, 畏れ入つて平身低頭したる, (身分のへり下つた) 下賤の; humila dometo 賤が家。(ĉ) Pek'eco 罪たること, 罪科(の大小など)。

85.—Du militas — la tria profitas.

二人が戦う, 第三者が利益を得る[鵜蚌の争は漁父の利]。

86.—(a) Nebuligi la okulojn. (b) Ĵeti polvon en la okulojn.

(a) 人の眼を曇らす(もやにする)。(b) 眼の中にごみを投げ込む[人の眼をくらます, ごまかす]。

EL NOVAĴOJ

Kiel traduki ĵurnalartikolon

時事文研究

REALIGO DE PACO KAJ KONSTITUCIA REGADO

Deklaro pri la reveno al la ĉefurbo

和平と憲政實施

還都宣言

[30-an, Nankino, depeŝo speciale al Asahi] La kompleta teksto de la deklaro de la nacia registaro pri la reveno al la ĉefurbo, publikita la 30-an, estas kiel jene:

La nacia registaro anoncas kun elkora sincereco al la tutlandaj fratoj, la jenon, reveninte al Nankino laŭ la decido de la centra politika konferenco. La du ĉefaj celoj, nome efektivigo de paco kaj efektivigo de konstitucia regado estas zorge decidita ĉe la centra politika konferenco, kaj la nacia registaro firme tenas ilin kaj volas nepre plenumi. La dirita realigo de paco kuŝas en tio, ke ni kunlaboru kun Japanujo kaj starante sur la bazo de la principoj de amikeco inter najbaroj, komuna defendo kontraŭ kominterno, kaj ekonomia interhelpo, forbalau ĉiujn okazintajn konfliktojn, restarigu amikajn rilatojn estontajn, kaj se ekzistas io en la estintaj politikoj kaj leĝoj, kio kontraŭas al la dirita celo

【南京特電三十日發】 30日の國民政府還都式典を期し發せられた國民政府還都宣言全文左の如し。

國民政府は中央政治會議の決議により南京に還都せるを以てここに謹みて誠意を披瀝し明らかに全國同胞に告ぐ。和平の實現と憲政の實施との二大方針は中央政治會議において鄭重に決議せられたるところにして、國民政府は右方針を堅持し、誓つてこれが實現を期せんとす。所謂和平の實現とは日本と協力し、善隣友好共同防共及び經濟提携の原則に基き過去の紛糾を一掃し、將來の親善關係を確立し、過去において採れる政策及び法令にして右方針に反するものあらば必ずそれぞれこれを廢止し、又は修正し、努めて

單語 [和平と憲政] konstitucio 憲法 depeŝo 急報 (主として電報)

kominterno = komunista internacio konflikto 紛争 politiko 政策 abolicii (法律など

を) 廢止する adapti 改修する konservi 保持する sen'depend'ec'o 獨立 suvern'ec'o 主權 ad-

註 こうした固い文體は、一般に翻譯しやすいものであつて、あまりおうくの説明を必要としない。はじめから、ほとんど單語をひとつひとつ逐つて譯してあるから、譯文を、たんねんに、原文にひきくらべながら讀んでゆけば、よくわかるはずである。

〔和平と憲政〕「(和平の)實現(と憲政の)實施」を realigo と efektivigo とで譯した

が、どちらをどちらに使つてもよい。このふたつの單語は同義語である。嚴密に區別すれば、efektivigo は「計劃」にとどまらず、「事實化」することであり、realigo は、「理想」にとどまらず、「現實化」することである。さらに、つぎに出て来る plenumi も同義語であるが、これは、「プログラム」にしたがつて「實行」することである。

主權の獨立自由と行政の完整とを保全し、且つ經濟上に互惠平等の合作を實現し以て共存共榮の基礎を樹立せんとするにあり。

中日兩國はもと義兄弟に同じ、一旦不幸にして干戈を動かすに至れるが、今次國交の調整を経たる後は永く平和を維持し、共に東亞を安定せしめ、同時に一切の友邦に對してもまたこの和平外交の方針に基き、信義を講じ、睦誼を修め、以てその友好關係を増進すべきなり。

所謂憲政の實施については中國國民黨第5次及び第6次全國代表大會の宣言中に既に明確に規定せられ全國賢能の士も亦夙に一致賛同する所なり。今や戦後各般の施設悉く廢絶し、これが復興を待つ秋、偏えに舉國同胞物心兩面の力を集中し、勇往邁進し以て現代國家の建設を完成するに頼らざるべからず。過去における個人の獨裁制は全國人民精誠團結の障碍たりしを以て、必ずこれを革正除去すべし。又共產黨は階級鬭爭を挑發し特に國家民族の大敵なるをもつて、必ずこれを根絶廓

ni abolicion aŭ adaptu ĉion respektive, klopodu por konservi sendependecon kaj liberon de la suvereneco kaj kompletan ordon de la administrado, kaj re-ligi kunlaboron reciprokan kaj egalrajtan en la ekonomio, per kio ni starigu la fundamenton de la komuna ek-istado kaj komuna prospero.

Ĉinujo kaj Japanujo ja similas al fratoj. Kvan-kam ili ekstaris kun armilo kontraŭ si, tamen post hodiaŭ kiam oni reordigos la rilatojn, ili devas teni por ĉiam pacon kaj kunlabore stabiligi Orienton, kaj samtempe ankaŭ kun ĉiuj aliaj amikaj landoj ni devas interrilati kun fideleco kaj komuniki en harmonio sur la principo de la paca diplomatio, kaj per tio akceli la amikajn rilatojn.

Pri la dirita efektivigo de konstitucia regado, oni jam klare difinis tion en la deklaroj de la kvina kaj sesa kongresoj de la Tutlandaj Reprezentantoj de la Ĉina Nacia Partio, kaj ankaŭ kompetentaj homoj tra la tuta lando jam frue aprobis tion unuanime. Nun en la tempo post la milito, kiam ĉiufakaj instalaĵoj estas detruitaj kaj ilia restarigo estas atendata, ni devas atendi al la tutlandaj fratoj, ke ili koncentrigu siajn fortojn materialajn kaj animajn kaj kuraĝe antaŭen puŝigu, por kompletigi la starigon de la moderna regno. Ĉar en la pasinteco, la absolutismo de individuo faris baron kontraŭ la fidela ligo de la tuta popolo, oni nepre

ministr'ad'o 行政 egal'rajta 平等の權利の
stabil'ig'i 安定さす akceli 促

進する diplomatio 外交
kompetenta 權能ある in-
stal'aj'o 施設 re'star'ig'o 再建

koncentr'ig'i 集中さす puŝ'ig'i
突進す absolut'ism'o 獨裁主義
individuo 個人 klasbatalo 階

「過去の紛糾」——「過去の」は、普通, pasinta か estinta であるが、この「紛糾」は、まだ解決されていないもので、pasinta とか estinta とか いえないわけである。そこで、「(過去に)おこつた」という意味で okazinta を用いた。

「互惠の」は、文字どうり譯せば reciproke favora であるが、reciproka「おたがいの」だ

けで十分。

「義兄弟に同じ」——ここの「義兄弟」は bofratoj でなく, fratoj laŭ ĵuro とでもゆうべきであるが、簡単に similas al fratoj で十分。

「信義を講じ、睦誼を修め」は、その意味の内容をとつて「誠實をもつて關係しあい、調和のうらに交通する」というように譯した。

devas ĝin korekti kaj forigi. Kaj ĉar la komunista partio instigas klasbatalon kaj estas granda malamiko de la ŝtato kaj popolo, oni bezonas nepre ĝin ekstermi kaj purigi, por ke ĝia postveneno ne restu.

Pri starigo de organoj por la voĉoj de la ĉiuklasa popolo, efektivigo de aŭtonomio de la lokaj komunoj, kunvoko de nacia kongreso, starigo kaj publikigo de konstitucio estos tre baldaŭ realigitaj responde al la atendo de la tuta popolo. La supre dirita realigo de paco kaj efektivigo de konstitucia regado estas la plej gravaj celoj, kiujn plenumos la nacia registaro, kaj samtempe la plej granda devo, kiun ĝi portos sur siaj ŝultroj.

Ĉe la reveno de la nacia registaro al la ĉefurbo, ĝi sincere esprimas sian senliman kondolencon kaj estimon al la militistoj falintaj sur la kampo, al la civitanoj pereintaj en la suferego, kaj al la pioniroj oferintaj sian vivon por la paco-movado. Kion la registaro intencas unue fari kiel sian devon, estas helpi al la popolo post la milito, ĝuigi protekton de la ŝtataj leĝoj por la libero de la vivo kaj havaĵo, kaj igi trankvile labori en sia okupo kaj partpreni en la restarigo de la ekonomio kaj industrio kaj evoluo de la kulturo. La nacia registaro kun sia tuta stabo sincere intencas revivigi la ŝtaton kaj popolon, honeste, kuraĝe, kaj kun la spirito, ne eviti penon, ne retiriĝi antaŭ malamo, dividante

placi, la restojn de la malamo forigi.

各級民意機關の設置, 地方自治の實施及び國民大會の召集, 憲法の制定發布などに至りては, いずれも日を期してこれを實行に現わし, 以て全國人民の要望に副ふべし。以上和平の實現と憲政の實施とは國民政府の遵奉すべき最大の方針なると共に又國民政府の負擔すべき最大の任務なり

ここに先ず國民政府の還都に際し, わが陣歿せる將士, 殉難せる人民及び和平運動のために犠牲となれる諸先烈に對し謹んで無限の哀悼と敬禮とを捧げ, 國民政府が第一に己れの責任として企畫する所は, 實に戦後の人民を撫恤し, 其生命財産の自由をしてよく國家法律の保障を受けしめ, 各々その業に安んじ, 以て經濟産業の復興と文化の發展に従事せしむるにあり。國民政府は謹んでその僚屬を率い, 廉潔勇敢勞をいとわず, 恨みを受けるも尙辭せざる精神を以てわが無辜の人民と苦樂を同じくし, 生死を共にし, 以て國家民族の復興を企圖すべし。

級闘争 ekstermi 殲滅する

voĉo (意志表示の) 聲 aŭto-

nomio 自治 loka 地方の ko-

muno 自治體

kondolenco 哀悼 stabo 主

腦部

「會議」と「大會」を konferenco と kongreso とに譯したが, この譯語は, かならずしも, いつも一致しているとはかぎらない。konferenco は, ある一定の重大な問題について協議する, おもに外交上の, あるいは國際的な會議。kongreso は, ひとつの部門に屬するひとびとの全國的, あるいは國際的の會合で, 協議の題目はいろいろあるのが普通であ

る。

「各級民意機關」は, 「各階級の人民の意見を反映させるための機關」という意味で, これを, もう一度ちぢめて, organoj por la voĉoj de ĉiuklasa popolo とした。

「國」に對し, regno, ŝtato, nacio をもちいているが, regno は, 他の國と對立して, ひとつの獨立の國家として存在する「邦國」であ

現在重慶及び各地に服務中の公務人員と一般將士とに對し敬意を以て布告す。右届出ありたる人員に對してはその確實なる表明ありたる後すべて元級元俸を以てこれを任用すべく、凡そ公務人員たるものこの布告ありたる後必ず速かに南京に歸還して届出をなすべし。その忠誠の念を抱き、その地位に應じて韓旋運動に苦心し貢獻する所ありたるものは、特に優待してこれを任用すべし。又一般將士はこの布告ありたる後必ずや命を遵守し、即時停戦し以て後命を待つべし。

その正規の軍隊にあらずして各地に散在し遊撃を擔當するものも亦必ず命に従い、活動を停止し、靜に點檢を受け、收容、編成せらるゝを待つべし。これ和平建國の基礎にして、共に努めざるべからざるところなり。

國民政府今次の還都は全國を統一し、和平の實現と憲政の實施との大道に向つて勇猛前進せんとするものにして、全國の内これをもつて唯一の合法的中央政府となす。従つて重慶側において若し全國内

kun la senkulpa popolo ĝojon kaj malĝojon, sorton de la vivo kaj morto.

Kun respekto ni anoncas al la publikaj oficistoj kaj ĉiuj militistoj, kiuj nun funkcias en Ĉunkin kaj aliaj lokoj. Tiujn, kiuj jam sin prezentas, ni servigos kun ĝisnunaj kondiĉoj pri la oficgrado kaj salajro, post la firma esprimo de la volo, kaj tial post publikigo de tiu ĉi anonco, ĉiuj publikaj oficistoj nepre frue revenu al Nankino kaj tion informu. Pri tiuj, kiuj restis lojalaj kaj ĉiuj sia pozicio helpis kun peno kaj kontribuis por la movado, ni faros specialan konsideron ĉe la enoficigo. Kaj la militistoj, kiam tiu ĉi anonco estos publikita, nepre obeu la ordonon kaj tuj haltigante la batalon atendu la sekvontajn ordonojn.

Ankaŭ tiuj, kiuj ne apartenas al la regula armeo kaj aktivas kiel geriloj en diversaj lokoj, devas nepre obei la ordonon kaj ĉesi la agadon, kaj kviete respondante vokon atendu, ke ili estos akceptataj kaj organizataj. Tio ĉi estas la fundamento de la paco kaj restarigo de la regno por kio ni ĉiuj devas kune klopodi.

La reveno de la nacia registaro al la ĉefurbo celas unuecigi la tutan landon kaj kuraĝe puŝigi antaŭen al la granda vojo de la realigo de paco kaj efektivigo de la konstitucia regado, kaj tiu ĉi estas la sola legitima centra registaro de la tuta

funkcii (自分の仕事を) 行う kontribui 寄與する aktivi

活動する gerilo 遊撃隊員 legitima 合法の reĝimo 政權

kontrakto 協約 nevalida 無効の aktuala 現實の incidento

り, ŝtato は、「人民」に對して、これを治める「國家」であり, nacio は、「國」を形づくる人的要素としての「國民(全體)」であるが、それは、もともと、言語、習慣、傳統などによつてつながれた「民族」であつて、それ自身では、ひとつの獨立國家をなしていないばあいもある。これに對して、「國土」を意味するものは lando であるが、これは、もつとも廣い

意味での「國」をもいいあらわす。さらに國際間における1個の「勢力」としては, potenco がある。また nacio が「民族」であり、「國家」の枠におさめられているのに對して、社會を形づくる「民衆」、また國家 (ŝtato) が支配する對象としての「人民」は popolo, これは民族性を問わない。對應するのは, ŝtato ← → popolo; nacio ← → lando, nacio ← → nacio,

lando, kaj tial se la Ĉunkin-reĝimo publikos leĝojn kaj faros kontrakton kun aliaj landoj, ili ĉiuj estas kompreneble nevalidaj. Ni esperas, ke ankaŭ la Ĉunkin-reĝimo forŝovos nesolvitajn detalojn kaj planos frue ordigi la aktualan situacion kaj kune laboros por elsaviĝi el la malfacilaĵo.

Depost la okaziĝo de la incidentoj, pli malpli frue oni organizis reĝimojn, nome la provizoran kaj la renovigan registarojn kc, kaj per sia tuta forto kaj tuta energio oni sindoneme penis kaj klopodis detale gustumante amarajn dolorojn por teni la suverenecon kaj protekti la sorton de la popolo, kaj nun jam ili unuanime konsentas kunfandiĝi en la nacian registaron. Kaj tial, kion ili aranĝis, tion respektive ni aŭ por kelka tempo konservos en la nuna stato, aŭ rapide ordigos laŭ la ĝeneralaj principoj.

De nun la tuta nacio kuracos sian vundon de la milito, unuanime kaj unumorale sub la unueca gvido, kaj planos estontan evoluon. De tio ja pendas la releviĝo de la ŝtato kaj popolo kaj paco de Oriento, por kio ni profunde esperas kaj atendas.

Tokyo Asahi, 30, marĉo.

に對して法令を發布し、外國に對して條約を締結するも何れも、みなその無効なること當然なり。望むらくは重慶側も從來の行掛りを一擲し、速かに局面の收拾を圖り、ともに艱難を救はんことを。

事變以來臨時維新兩政府等の政權前後成立せるが、何れも國脈を保全し、民命維持するため、全身全力を擧げ、鞠躬盡瘁し具さに勞苦を嘗む。今既に一致して國民政府に統一することに同意す。よつてその辯じたる事項に對しては姑らくその現状を維持し、並に大勢の方針に基きて速かにこれが調整をなすべし。

これより後全國は統一的指導の下に、同心同德、戦後の創を醫やし將來の發展を圖るに至らん。これ實に國家民族の復興と東亞の和平との繋る所深く囑して已まざる所以なり。

事件 provizora 臨時の re'nov'-ig'a registaro 維新政府 amara にかい protekti 保護する kun'-fand'ig'i 銓けこむ

〔資源開發〕 ekspluato (資源の)開發 naturaj provizoj 天然資源 intereso 權益 potencoj 列強 agnoski 確認する

〔帝國聲明〕 fazo 様相 leĝo 法則 solida 堅固な install 設立する sekur'ig'i (安全を)保證する ĝui 享受する el'teni 堪

lando←→lando; regno←→regno; potenco←→potenco である。

「陣歿した」は、falinta sur la kampo としたが、kampo は batalokampo (=batalejo) の意味。

「和平運動」を paca movado としなかつたのは、それでは、paco は movado そのものの形容になる(「平和な運動」の意)からである。

movado por paco でもよい。

「その業に安んじ」は trankvile labori en sia okupo (安心して、自分の業務に働く)とした。

「優待してこれを任用すべし」は faros specialan konsideron ĉe la enoficigo (任用に際しては特別の考慮をする)。

「行掛りを一擲し」はいろいろに譯すことが

資源開發に特殊關心

第三國權益排除せず

還都宣言に呼應

帝國重大聲明

帝國政府は南京における支那新國民政府の還都宣言に呼應して三十日午後四時半左の政府聲明を中外に發表し、新政府と相提携して東亞新秩序の建設に邁進せんとする帝國の決意を闡明し、列國が速かにこの東亞の新事態を確認することを力強く要望した。

帝國政府聲明

夫れ生命は不斷に發展し、事象は時時に變化す。國際の秩序亦これに遵う。帝國は常にこの裡に在りて、國際正義の昂揚と人類平和の確立とに力を致すものなり。今や支那新中央政府樹立せられ、更生支那の建設その緒に就く。帝國政府はその成立を慶賀すると共に、其發展に對しては屢次の聲明に基き全幅の協力と支援とを與へんとす。帝國は列國が又克く此の嚴然たる事實を確認し、速かに東亞の平和建設に寄與せん事を期待す。帝國が支那に冀求する所は、支那が克く道義に立脚して眞に其の獨立と自由とを完

SPECIALA INTERESO EN LA EKSPLUATO DE NATURAJ PROVIZOJ INTERESAJ DE LA TRIAJ LANDOJ NE REPUŜOTAJ

Responde al la Nankina Deklaro
Imperia registaro faras gravan deklaron

Responde al la deklaro de la nova ĉina Nacia Registaro en Nankino pri la reveno al la ĉefurbo, la imperia registaro publikis je la duono de la kvara posttagmeze, la 30-an, deklaron, per kio la imperia registaro klarigis sian decidon sin puŝi al la konstruo de nova ordo de Oriento, interhelpe kun la nova ĉina registaro, kaj energie esprimis la esperon, ke la aliaj potencoj plej frue agnosku la novan situacion de Oriento.

La Deklaro de la Imperia Registaro

Oni scias, ke la vivo evoluas konstante, kaj la fazoj ŝanĝiĝas ĉiumomente. Ankaŭ la internaciaj ordoj sekvas tiun ĉi leĝon. Nia imperio ĉiam subĝi klopodas por la altigo de la internacia justo kaj starigo de la solida paco de la homaro. Nun en Ĉinujo oni instalis novan centran registaron, kaj la konstruo de la revivigita Ĉinujo estas komencita. La imperia registaro gratulas ĝian formiĝon, kaj samtempe deziras doni plenan kunlaboron kaj subtenon por ĝia evoluo, konforme al niaj pluraj deklaroj. Nia imperio esperas, ke ankaŭ la aliaj potencoj agnoskos

できる。たとえば, forgei ĉiajn okazintajn malakordaĵojn (または, 單に okazojn) (おこつた不和事件を全部忘れる) でもよい。ここには forŝovi nesolvitajn detalojn (未解決の, あれこれを押しのけて)。

「國脈を保全し民命を維持するため, 全身全力を擧げ鞠躬盡瘁し具さに勞苦を嘗む」にはすこしはなれた譯を與えた。この部分の譯文

を, さらに日本文にかえすと, 「主權を保ち (teni) 民衆の運命を保護するために, にがい苦痛を細かく味いながら, 全體力と全精力をもつて獻身的に努力し, 盡力した」。

「その辯じたる事項に對しては, 姑くその現狀を維持し, 並に大勢の方針に基きて速かにこれが調整をなすべし」→「彼等(各政權)が處理したことは, それぞれ, あるいは今の狀態

tiun ĉi evidentan fakton kaj frue kontribuos al la konstruo de la paco de Oriento. Kion la imperio atendas de Ĉinujo estas, ke ĝi starante sur la moralo, vere kompletigos sian sendependecon kaj liberon, ke ĝi interhelpe kun nia imperio sin puŝos antaŭen al la konstruo de nova ordo de Oriento, kaj dividos kun ni la ĝojon de leviĝo. Estas kompreneble, ke nia imperio havas specialan intereson kaj postulon koncerne al la ekspluato kaj utiligo de la naturaj provizoj de Ĉinujo por sekurigi sian vivadon kun la orientaj regionoj. Sed tamen nia imperio ne nur ne intencas forpuŝi la pacan ekonomian agadon de la triaj nacioj, kiuj konformigos sin al la nova situacio de Oriento, sed volonte kunhelpos kun ili por ĝui la profiton de la internacia komunikado, kaj tie ja kuŝas la vera signifo de la fakto, ke nia imperio eltenis grandan maloportunecon, malgraŭ la eksterordinara situacio dum la daŭro de la militaj operacioj, en la klopodo protekti iliajn rajtojn kaj interesojn en Ĉinujo. Nia imperio ne nur neniam mallevos armilojn kontraŭ la restanta forto por komunisma kaj kontraŭ-japana, dum ĝi ne vekigos el la erariga revo, sed ankaŭ venkos kaj trabatos, kun firma decido kaj konstanta preteco, ĉiujn barojn, kiuj povas estonte okazi, kaj per tio ĝi komplete plenumos la celon de la sankta milito.

Tokyo Asahi, 30, marto

成し帝國と互に相携えて東亞新秩序の建設に邁進し、其の興隆を共にせんことに存す。帝國が東亞諸邦と共に其の生存を確保せんが爲、特に支那資源の開発利用に關聯し、特殊の關心と要求とを有するは固より其の所たり。然れども、帝國は東亞の新事態に即する第三國の平和的經濟活動に對しては、敢て之を排除せざるのみならず、進んで是等諸邦と協力し、俱に國際修交の福利を享受せんとするものにして、帝國がその作戰繼續中の異常事態にも拘らず、多大の不便を忍び、列國の在支權益の擁護に努力し來れるの眞意實にここに存す。更生新支那亦その方途を一にすべきは帝國政府 確信する所なり。茲に更生新支那の發足を見、東亞の情勢將に一轉機を劃せんとす。帝國は殘存容共抗日勢力にして迷夢猶醒めざる限り、之に對し斷じて矛を戟むることなきは勿論、今後生ずることあるべき一切の障礙に對し、確固たる決意と不斷の用意とを以て、之を克服突破し依て聖戰目的の完遂を期するものなり。

えしのぶ ekster'ordinara 異常 komunisma 容共の kontraŭ-
の (milita) operacio 作戰 por'- japana 反日の tra'bati 打ち破

prel'ec'o 用意

のままに保存し、あるいは一般的な原則に従つて速かに調整しよう」。

〔資源開發〕 intereso には、「(事業上の)利益」→「(そうした利益に關する) 利害關係」→「(その利害關係に對する) 關心」→「(その關心から出發した) 好意」→「(その關心の範圍をひろげて) 興味」などの意味がある。しかし、これらは、うゑに示したような關係でつながれ

ているから、前後の關係で、混亂するおそれはない。

〔帝國聲明〕「その興隆を共にせん」は、すこし行文をかえて、dividos kun ni la ĝojon de leviĝo (興隆のよろこびを、われわれと分つ)。

観光エスペラント協會の歩むべき方向は？

池 川 清

昭和 13 年の名古屋大會で結成された日本観光エスペラント協會はその後 14 年の大阪大會でも盛會裡に總會を開いて年次計畫を立案したのである。しかるにその後大阪エスペラント會と補助金の問題が交渉中で、未だに成案を見ていない。その罪は全部委員が負うべきであるが、特に拙者の責に歸するものがない。積極的に交渉していないことにつきる。考えれば、O. E. S. (大阪エス會)も随分やつかいな物をせおわされたものだ。しかし O. E. S. としては観光エス運動に對しては相當 關心を持ち、過去に於ては大阪市役所が我國の都市案内エスペラント版を最初に出版したのも O. E. S. の努力である。

創立當時では 2600 年には相當多數の歐米エスペランチストが日本を訪ねるであろうとゆう豫想をしていた。ところが、2600年の蓋をあけてみると、歐洲の風雲は實に物凄い krizo で到底外へ旅行などとは云つてられない。

そこで日本観光エスペラント協會も開店休業中とゆう當世向きの現象を呈し、あるのかないのか内地では忘れられそうである。しかるに諸外國の觀光機關との交渉は屢次くりかえされ、その印刷物なども澤山送附してくるので、會友(現在 4 名、京都の糸井氏、神戸の月本氏、宮川氏、名古屋の竹中氏)には必ず送附して参考に供している。この會友とゆうのは年額 50 錢を支拂つた人々であるが、そこへ物を送るための送料が年額 7-80 錢(雜費を含めれば、優に 1 圓)もつくので、この差額は誰の負擔になるのか分らない。この調子だと會が存在する價值は、單に海外の印刷物を 4 人の會友に送ることぐらいである。その他にどんな仕事をすればよいかといえは日本観光エスペラント協會の名で各都市や各種の對外機關にエスペラント案内書の發行の運動

を促進したり、その外にも協會の概要に書いておいた様な仕事があるわけであるが、その爲めには私の 1 人の考えや努力では何んともならない。本協會の會長に相當の人物を置いて、内宣傳の効果をあげなければ駄目である。

それでは日本観光エスペラント協會をどうすればよいかについて私見を述べてみたい。

この種の協會の仕事は次の如く分類することが出来る。

1. 外國のエスペランチストが來訪したときに、その斡旋をする。

〔説明〕 ところが、外國の Esp-isto が日本へ來ても、その旅行の性質にもよることであろうが、日本エスペラント學會の方が國際的に外國機關雜誌や年鑑にもよく名前が出ている。あながち日本観光エス協會に申出て日本旅行のプランを立ててもらわなくとも日本旅行協會(ビューロー)も今日では日本鐵道省の補助を受けて歐米各地に出張所を設けて日本旅行の相談に應じている。日本観光エスペラント協會の如く外國に出張員を有していない機關に比較すれば遙かに有利であろう。故に、この第 1 の仕事は、むしろ、日本旅行協會と日本エスペラント學會にまかせた方が適切である。日本エスペラント學會も仕事が澤山あつて忙しいらしいが、年に 1 人や 2 人の外人 Esp-isto の旅行相談ぐらいならやつてやれよう。

2. 各地の宿舍の調達と見物案内すること。

〔説明〕 外國同志が 1 年に 100 人も 200 人も訪日するならいざしらず、年に 1 人や 2 人の外人なら、何も、平素からホテルと特約することもあるまい。豫算に應じてホテルを世話することも出来ようし、又都合によつては日本の家庭に泊めてやれば一層に結構である。日本へ來る外人旅行者の大部分は日本の家庭生活の實相にふれたいと切望し乍ら、その希望が達せられずに日本を去つているのである。私など、歐洲旅行中にホテルに泊つたことは例外で、原則としては個人の私宅に客として歓迎されたのである。その方が、どれ程親切

さを感じるか知れない。帝國ホテルや新大阪ホテルに泊つていれば、外人はいつまでたつても、日本人の家庭生活の實態には觸れ得ない。それほど馬鹿げた日本旅行はない。

また見物の案内については、日本観光エスペラント協會の支部でやつてもろう計畫であつたが、外人の客が皆無である昨今は、やたら看板をかけて門前雀羅をなす態で甚だ期する所と遠い次第である。しかし、この案内も支部の方のみをお願いするのも氣の毒で、その都市の全 Esp-istoj が外人の見物案内について夫々時間をみて世話をしてやればよい。たゞ観光協會支部なり學會の支部がその世話の斡旋役であらう。

3. エスペラント案内書の作成

〔説明〕 從來日本では鐵道省に國際觀光局があり、各都市に觀光協會又は觀光課があつて案内書を發行しているが、私見を以てすれば、この分立的狀態は觀光行政の幼稚な時代の現われで、イタリー、ドイツの如く觀光行政が國策的に確立されるときは、各都市で思い思いのデタラメの案内書は許さるべきでなかろう。むしろ、中央で大方針を定めて對外宣傳印刷物を計畫的に發行すべきであらう。大阪市から發行した Esp-gvidilo などは愚とゆうか眞にその狙所が分らない代物で、名古屋のピラに至つてはその用途の多方面すぎる爲めに果して有効適切な出版であつたか否かを疑うものである。

外人向の案内書は、第1には日本全體の案内書を必要とし、次にはその案内書に記載されない様な郷土的地方的特質を記載したる案内書を必要とする。その意味に於て、鐵道省から發行している日本案内書(英、エス等)は(毎年若干づつ訂正されるべき箇所もあらうが)大體に於て5年間位はそのまゝ使用出来る様な内容を盛つてよいものである。勿論、列車時間表などをそれに書き入れる用紙さえあれば、變更され易い時間表を記載するなどの必要はあるまい。東京市について云えば、東京案内の Esp. 版を作る必要はない。むしろ、「明治以降の東京と外人の文化的影響」とか「東京都市計畫(震災と都計)」等の方がむしろ有効である。なぜなれば、毎年1人や2

人の外人 Esp-isto 客に對して與える Esp. 文東京案内書よりも外國に於ても讀んでみて興味をもてて、しかも東京へ見學に行つてみたくなる様な印刷物の方が吸引力ともなり又文獻的價值をも有する。その意味に於て、神戸市の如きも「外人居留地と神戸市發展の關係」とか「日本文明に及ぼした神戸外人の勢力」とか「六甲の風景と内外人」と云う様な Esp. 文の印刷物を發行すれば必ず歐米の Esp-isto からは Kobe に對して注文が殺到し、Kobe の名を、いやが上に世界的にするであらう。又大阪市は既に Esp. 文大阪案内書を發行した經驗を有するものであるが、私は再度その計畫を企てたくない。若し Esp. で企てるならば、「日本資本主義の發達と大阪商勢」とか、「日本經濟に及ぼす大阪人の實行力」といつた様なものの出版されることを願うものである。

すべからく、都市の全體的案内書は日本旅行協會に高久甚之助氏が居られるのであるから、ビューローに一任し、各都市は、それぞれ特長のある案内書を出してほしい。又京都市觀光課の如くビューローと共同して案内書を出すのも一策であるが、要するに狙い所を定めてから行動に移らないと、徒に、人のまねは讀み手のないダンピング本の發行の様なもので、紙饑饉の今日では是非、やめたいことである。さなきだに觀光といえは遊樂と共通した感じをもつて考える人が多いのであるから眞に「無駄なき政策」を立てたい。

4. 日本 Esp-isto の海外旅行に便宜供與

〔説明〕 日本 Esp-isto にして海外に商用、勉學等で旅行するものは多い。毎年5人位はあらう。その人々は海外に交通者を有しているし、海外の Esp. 團體は未知の日本 Esp-isto をも眞に親切に歡迎してくれるから決して心配はないのであるが、世界中には特に日本人及日本に感謝の念をもち又は興味と關心を有する人士が多いのである。例えば私がブラーグでシュスター氏に會い、ニューヨークでコーナー(Connor)氏に會つたなどは、兩人共日本ではすこしも知られていないが、共に大變な親日家で、先般豐田ゆり子さんに會つてきいても、非常に親切にしてもらつた由である。そう云う風に世界各地にかくれたる親日 Esp-

isto がいるのであるから、それらの人々の名簿を備えて、外遊者の旅行の手引にするのも大きな有益な仕事である。久保貞次郎君も最近歸朝されたから、この方面については特に資料を澤山有つてゐることと思う。今までの日本の外遊 Esp-isto は團體的に連絡がとれていなかったから非常に不便をし合つたわけで今後はぜひもつとお互の經驗を活用して後進の方々のよき相談相手となれる様に心掛けたい。日本に歸つて來て横濱の土を踏んだトタンに歐米の Esp-ujo で受けた Esp. 恩を忘れるなんて随分とけしからぬことである。

この仕事を日本觀光エスペラント協會が引受けるのが適當か否かとゆうことになるかと反對もあろう。第 1, 協會の本部が大阪であることがあげられるが、これについては實際は餘り問題であるまい。あながち東京に本部がないからといつて利用價值がないとも云えまい。この仕事だけは先輩各位の御贊助を得て大阪で完成したいと思つてゐる。

ビューローの記録をみると東京から觀光エスペラント團として滿鮮支を旅行した 20 人程の團體があるが、日本觀光エスペラント協會も今後はこの種の計畫も出來よう。そして滿支各地で觀迎會も開いてもらつて、滿支人とも思ふ存分新東亞の建設について語りあいたい。

5. 外國觀光機關との連絡

〔説明〕 この仕事は今まで日本觀光エスペラント協會が最も努力して來た仕事である。Revue Orienta は勿論、Praktiko, Heroldo に廣告されたるエスペラント案内書の發行所に對しては必ず寄贈を乞ひ、それぞれ各方面に配布している。この仕事は今後も協會でやれよう。たゞ送料等の點に於て十分に皆さんの理解を得なければ續行不能に立至るであろうことは明かである。

6. エスペラント講習會の開催

〔説明〕 今までに開催したことは大阪で 1 度あるきりである。その時はオリンピックを目指して開いたから大變な聴講者であつたがこれはあながち協會でなければ出來ないとゆう性質のものでないから、今後は中止したい。各地にエスペラント會などがあつて、益々盛

んに開催している現在では觀光エスペラント協會などが、その事業として特にエスペラント講習をあげる必要もあまい。まだ、Hotelo 用語等の觀光エスペラントの研究會なら開催するのもよからう。ABC-kurso は地方會に一任すべきものである。

以上は發會式の概要の際に説明した事業の大要であるが、大いに事業も組織も改革 必要が認められよう。されば、今後に於ける協會には何が課せられているかを茲に述べたい。これは私見であるから大方の御批判を乞ひたいものである。

業務を開始したからには相當の利用者がなければならぬ。恰も各地の商工相談所や轉業相談所が開店休業ではないが利用者がないので毎日アクビをしている状態ではたまらない。協會もそれと同じで、存在するからには相當に相手にされたいものである。

先ず、日本、滿洲、中國、蒙古の主要觀光地商工地に觀光委員を置くこと。それを名簿にして發行し、商用旅行等でその地方に出張又は轉任する場合に、特に依頼することがあれば委員に通知すればよいことにしておけば、私達が、滿支の旅行をする際には、又滿支の方が日本に旅行される場合にも大變便利である。豫め判つていれば、さゝやかでも歡迎會も開催出來るし、宿舍も適當な所を斡旋出來る。

第 2 に、この種の會は滿洲にも支那にも作つてもらいたい。幸い滿洲では新京エスペラント會の方々の御盡力によつて滿洲の全同志の名簿が作られている（附録として中華民國あり）。しかも、その居所が全滿に及んでいるから、各都市で 1 人乃至は 2 人の觀光委員を選び、滿洲觀光エスペラント協會を組織し、又中華民國にも同様の場合が近く成立することを期待する。この會では日本人、中國人、滿洲人は勿論のこと歐米人も其他のアジア人も接遇するのであれば甚だ幸いであろう。これからの歐米の旅行者は單に日本のみを觀光の目的とせず、滿支にも足をのぼすことは明かである。この三つの協會が互助連帶して觀光エスペラント聯盟 (Orienta Esp. Turisma

Elpendaĵoj de butikoj el kutimoj kaj moroj de manĝuroj

MACUMOTO-K.

Elpendaĵoj vidataj ĉe la butikoj, firmoj kaj magazenoj en Manĉouŭkŭo prezentas unu flankon de popola gusto de tiu ĉi lando.

Ili dividiĝas en 4 specojn.

1. realisma
2. simbolisma
3. religia
4. ideografia

La lasta, la ideografiaj elpendaĵoj, malgraŭ la reputacio de la lando de literoj, fariĝis modaj, nur lastatempe, en urboj, kaj en provincoj ĉiam ankoraŭ restas primitivaj fojmoj.

Realisma estas plej ĝenerale aplikita.

Vermiĉelvendejo: kunligitaj longaj maldikaj paperoj simbolas vermiĉelon.

Vatvendejo: pendas granda vatpilko.

Ŝuvendejo: kelkaj specimenoj de ŝuoj pendas ligite per unu ŝnuro.

Drogejo: sur pendigita ronda tabulo estas desegnita nigra rondo. La desegnaĵo montras plastron algluita sur papero.

Farunvendejo: longaj larĝaj paperetoj blankaj kaj flavaj pendas en la formo de granda broso por glupasto. La blankaj signifas tritikan farunon kaj la flavaj kaoliangan.

Grenvendejo: pendas kvadrata volumenmezurilo nomata 方斗.

Vendejo de ilaro por enterigo: oni pendigas figuron de ĉevalo.

Ligo) を結成し、三協會の委員を名簿にすれば、旅行者の必携として愛好されるものとなる。

第3に會費の徴収は殆んど不可能に近いことが過去2ヶ年の體驗により明かになったから、委員(支部)からも會費などはとらず、名簿を實費で配布すれば、その他には別に金も

いらぬし、OESから無理に金をとる必要もない。たゞ海外の觀光エスぺラント資料の配布の希望者のみに發送することにして、その雜費等として年額1圓も徴収しておけばよからう。

要するに觀光とエスぺラントは分離して考え得ない程密接不可分の關係にあるのである。

Tiu ĉi devenas de la kutimo de funebra ceremonio, en kio oni bruligas paperĉevalon.

En provincoj vendejo de necesajoj prenas rolon de ĉiovendejo por la vilaĝanoj, sub ĝia markezo pendas diversspecaj realaĵoj k. simbolaĵoj; fasko de kanabfadeno, grandigita figuro de kande'o, oleo el salika ŝelo, diversaj manĝaĵoj...ka. Ĉio estas aranĝita en nedistingebla malordo. La primitiveco trovata el ili akordiĝas al la civiliteco de la manĝuraj provincanoj.

Simbolisma aplikas ĉefe bonaŭguraĵojn; ekzemple, drako, ĝirafo, frukto de persiko, lotusfloro, granato, vesperto, fiŝparoj, kalabaso.

Troviĝas ĉe ŝtofvendejoj aŭ vendejoj de multekostaj metaloj elpendaĵoj kun grandigitaj bildoj aŭ skulptaĵoj de drakoj, ĝirafoj k.a. Ĝenerale ruĝa koloro estas de ili amata kaj aplikiĝas al elpendaĵoj; restoracio pendigas ringon en la grandeco de ĉ. 30 centimetra diametro kaj ĝian cirkonferencon ornamas per ruĝaj longaj tukoj en la larĝeco de ĉ. 2-3 centimetroj; vinejo, vatvendejo pendigas triangulan aŭ rondan ruĝan tukon malsupre de respektivaj elpendaĵoj.

Religia. Mahometanoj distingas sian restoracion per blukoloraj paperetoj en tufoformo, aŭ skribas sur tabulo la ideografiajn literojn 清真, per kiuj ili akcentas senporkaĵecon.

Ideografia montraĵo prezentas la specon de negoco. Tiu ĉi lasta estas pli vaste uzata paralele kun kleriĝo de la manĝura popolamaso.

Ĉinaj ideografiaĵoj, ĝenerale uzataj kiel nomoj de manĝuraj butikoj, firmoj kaj magazenoj, estas elektataj el tiuj, kiuj ligiĝas kun la gento en la sencoj de ĉiuspeca bono, kiel jene:—

三, 大, 久, 天, 公, 元, 中, 文, 仁, 玉, 永, 正, 同, 生, 吉, 共, 西, 合, 成, 安, 利, 宏, 亨, 和, 東, 金, 協, 忠, 長, 怡, 昇, 阜, 來, 春, 洪, 茂, 美, 厚, 恒, 香, 政, 泉, 益, 泰, 振, 悅, 海, 晉, 啓, 萊, 乾, 祥, 匡, 通, 後, 莊, 順, 陽, 博, 雲, 富, 華, 裕, 發, 湧, 登, 源, 瑞, 義, 群, 新, 達, 會, 聚, 福, 鼎, 德, 廣, 慶, 潤, 增, 錦, 鴻, 謙, 豐, 雙, 寶, 盛.

La nomoj ordinare konsistas el tri literoj; k.e. —

三 益 合 春 興 棧

から、全日本の Esp-istaro はもつと旅行の際に網をたよりにすべきである。日本内地だと言葉に不自由せぬから自然と Esp. 網の世話にならずに旅行するが、日滿支の3國を考えると今までの様にはまいらぬ。歐洲の如く2時間も列車にのれば言葉のちがう國に行くのだともつと Esp. と観光を熱心に考えるので

あろう。

新東亞は今までの東亞でない。人文の交流なくして心の新東亞は建設されない。支那語の一夜漬では會話は出来ない。吾々は今こそ中國の青年 Esp-istoj を温くまねいて談話すべきの秋である。Esp.こそ観光を通じて八紘一字の實現用語となり得よう。

La unuaj du literoj estas preferitaj el supre cititaj literoj kaj ne havas specialan signifon krom jam dirita senco, dum la lasta montras per si mem specon de negoco.

La lastaj literoj
de nomoj de butikoj

speco de negocoj

局 — vinoj, ŝtonkarbo, lavisto, tajloro, metalurgio, lignosegejo

店 — mebroj, tualetoj, necesajoj, makleristo, agento, gastejo, k.a.

行 — magazeno, pogrando.

床 — fruktoj, viandoj, fiŝoj, legomoj.

舖 — necesajoj, komune uzataj por diversspecaj butikoj.

莊 — gustajoj, ŝtofoj, restoracio

樓 — restoracio, oraĵisto

號 — butiko de multekostaj metalajoj, ŝtofoj

館 — restoracio, fotografisto, teatro, sortodivenejo, hotelo

當 — lombardo

記 — kiam butikmastro uzas sian nomon kiel nomon de sia butiko aldonas ĉi tiun literon

園 — restoracio, amuzejo

班 — bordelo, muzikiloj

染 — tinktu ejo

堂 — altklasa bordelo, lavisto, barbisto

塘 — banejo

湯 — banejo

泉 — banejo, vinfarejo

場 (廠) — firmao havanta vastan korton; lign-, brullign-, ŝton-, ŝtonkarb-vendis'o

棧 — gastejo, agentejo, greno borso

居 — restoracio, vinejo

鍋 — distilita sakeo, sodofaristo

閣 — restoracio, bordelo kun grandega konstruaĵo

爐 (冶) — forĝisto

窑 — brik-, tegol-, argilajfaristo

坊 — farunfabrikisto, tinktur- k. teksisto, faboleofaristo, skribilvendejo

齊 — libro-, ŝu-, horloĝvendejo

Rim. de la tradukinto: Tiu ĉi priskribo estas tradukita el "kutimoj kaj moroj de la manĝuroj" kompilita kaj eldonita de Informejo de la Aferoj de Manĉoukŭo. Ĉe la eljapanigo la tradukinto iom adaptis la enkavon laŭ nuntempaĵoj kaj rearanĝis konvene por la legantoj.

AK がエスペラントで海外へ

外務省文化事業部市河課長が
「日本の生活と文化」について

東京中央放送局では、3月25日、エスペラントで海外放送を行つた。

放送したのは、外務省文化事業部第二課長として国際文化戦の先頭に立つ市河彦太郎氏であるが、同氏は、放送局からの放送依頼に對して、用語としてエスペラントを擇ばれたのであつた。放送は、「日本の生活と文化」とゆう題で、約10分にわたつて行われた。

放送に先だつて、市河課長を外務省に訪問したところ海外放送には、ぜひエスペラントを採用すべきであるとし、定期放送の實現に協力を約束された。

市河氏は、約20年前、東京帝大の學生時代にエスペラントを學習され、エスペラント運動とは離れていられたが、フィンランドに代理公使として駐割中は、その國のエスペランチストたちと親しく交際され、昨年、外務

省から出版されたパンフレット「フィンランドの話」のなかにも、エスペランチストたちの好意に感謝されている。

これは、そのうち岡倉書房から出された「文化と外國」に收められているが、今年にはいつてから、また、黄河書院から出された「フィンランド雜記」にも、エスペラントに觸れていられる。

ラジオ・イタリア

ヨーロッパに戦争が開始されて以來、イタリアのエスペラントによるラジオ國外放送に對する反響は減るものと豫想されていたが、事實はこれに反し、交戦國、中立國いずれからも増加する一方であるので、この狀勢に鑑み、イタリア放送協會では、從來20分間であつた觀光放送の時間を30分に延長することになつた。

また、北米むき放送にひきつづき、3月からは、中南米むきの放送が開始されることになつた。この結果、放送時間が改正され、土曜日2回觀光講演 (Romo II; 2 RO 9, 2 RO 15), 火曜日政治狀勢概況 (北米むき) (2 RO

3, 2 RO 4, 2 RO 6), 日曜日時事問答 (中南米むき) (2 RO 3, 2 RO 4, 2 RO 8) の4回にわたり行われることになつた。

ブラジルで講座放送

リオ・デ・ジャネイロのカトリック團體“Radio Vera Cruz”では、專屬放送局 PRE 2 から毎週1回火曜日エスペラント講座を放送することになり、放送のまえとあとにはエスペラント音楽を放送する。

このほか、ブラジルでは現在、PRE 3 (木曜日), PRA 8 (土曜日)からも講座を放送している。

宮崎大會に對し 縣市から補助 名譽會頭には長谷川知事

皇紀 2600 年を奉祝するために宮崎市において開かれる第 28 回日本エスペラント大會は、この地方にとつては、劃紀的なものとして同市官民の注目をひいており、縣市當局でもいろいろ好意的援助を與えているが、この大會宣傳のポスター作製にあつては、これが海外へも送られ、聖都宮崎の観光施設の國際的宣傳にもなるとゆう見地から、市參事會の決議により、金 300 圓の補助を與え、縣當局も補助を決定している。この補助金額は、實際參加人員により、相違がある様子であるが、相當高額の補助がある模様である。

また、宮崎縣知事長谷川透氏に對し、大會名譽會頭就任方を交渉の結果、こころよく受諾され、皇紀 2600 年奉祝式典に參列されることとなつた。また、根井市長、山本高農校長、日高中學校長、柿原縣會議長、日高市會議長、岩切商工會議所會頭等は名譽顧問となることを受諾された。

そのほか、準備委員會においては、いろいろの計畫をたてており、全日本のエスペランチ

ストが榮光に輝く皇紀 2600 年奉祝の意を表するに適しい、充實した大會となるであらう。

とうくは、ハルピンをはじめ、滿洲各地からも多くの參加者がある見込であるが、地元官民の期待にむくいるためにも、よりおうくの參加が希望される。また、今回の大會は、祖國の聖地巡歴がプログラムの重大な部分を占めているほどであるから、家族の參加も歓迎される。それゆゑ、不在參加のつもりでもうしこまれたひとびとも、この際、ぜひ出席してわれらの祝典に列なることにされたい。

大會ポスター作製

うゑに記載したとうり宮崎市當局の補助により大會宣傳ポスターができた。圖案はこの號の表紙の寫眞版に見られるとうり、品格の高い圖案が石版 4 度刷で印刷された、新聞紙 2 ページ大の美しいものである。

これは、各國のエスペラント團體および全國各地のエスペラント會に送られて街頭に掲げられるが、そのほか、全國の主要な驛にも掲げることになつた。

なお個人で、自分の町に掲げようとされるものは、その掲げる場所を明記のうゑ、準備委員會へ申込み送つてくれるはずである。

エスペラント譯語入 専門辭典ふたつ

1

オランダ照明學會は長らく待望されていた照明學辭典を出版したが、これには、721 語のオランダ語の術語に對し、ドイツ、イギリス、フランスの 3 ケ國語ならびにエスペラントの譯が加えてある。これの、エスペラントの部は、エス獨百科辭典の著者として知られるヴェスター博士 (D-ro Eugen Wüster) ならびに W. P. Roelofs の手になるものである。

2

アルゼンチナ電機工學委員會は、國際電氣工學辭典のスペイン語版を出したが、これにもエスペラント譯がいれてある。

エスペラント入切手と日付印

昨年 12 月 15 日から 31 日にいたるブラジルの第 12 回國際定期市にあつて、例年の

とうり、エスペラント入りの案内書、ポスターなどを發行、またエスペラント入りの切手も發行、エスペラント入り日付印も作つた。

ノールウェイ觀光案内ふたつ

ノールウェイから觀光案内が 2 種出た。ひとつは、北ノールウェイのスキー場案内 "Gratangen"、もひとつは、西ノールウェイの觀光地案内 "La Slosilo al Haugaland" で、どちらも小型ではあるが、すつきりしたものである。もうしこみは、Gratangen Turista Stacio, Narvik, Norvegjuo, と Turisttrafika Komitato de Hauge und kaj Haugaland, Hauge-sund, Norvegjuo へ。

Kankro 説明書

日本フランキ製作所發賣の陶器製液體容器「カンクロー」の美しい説明書が出来た。表紙には「Kankro」の文字もはいつている。(發賣所は、大阪市西區新町通 1 丁目 7 興紀商會)

「熱帯の女」に 2 語

ジャク・コンウェイ監督、ロバート・テイラー主演の MGM 映画「熱帯の女」に、エスペラントが、2 語だけ話される。ロバート・テイラーが、インド支那で、まちがって見知らぬある女によびかけ、宥しをうたのに對

し、この女が “Estas bone” とゆうのである。これは、「ある女」に扮するフィダー嬢に監督が外國語を話せるかと訊ねたのに對し、たまたま、シェーラー氏の講習を受けていてエスペラントなら話せると答えたので、エスペラントを採用することにしたのである。

Parolas Membroj

「観光エス協會」 支部を

各地に作りたい

現在日本観光エス協會は名古屋、大阪、東京、京都、神戸、岡山、奈良、和歌山、熊本、岐阜、横濱、ハルピン、新京、奉天、大連の各都市に支部を設置しているが、この外に観光地として、商用でよく人の往來する高松、松山、八幡、大牟田、別府、宮崎、京城の各地には勿論その他大陸の各大都市にも支部委員を設け、お互にエスペラント網をたよりに旅行が出来る様にならなければ内地の Esp-o の効用は大變な損をしていることになる。國際的には I. E. L. から毎年 Jarlibro が出ているから、私達が歐米へ旅行しようと思えば、すぐに、Jarlibro をみて手紙を出せばよいわけだが、日本支那滿洲ではこの Jarlibro に相當した名簿がないから、これから一寸北京へ旅行しようと思つても、誰に手紙を出したのめばよいか目あてがない。こんなことでは Esp-o も矢張り歐米向に出来ているといわれてもしかたがなからう。「Esp-o は歐米向である」とゆうことを肯定する人は日本にも滿洲にも支那にもなからう。しかし、いよいよ實際に Esp-o を利用して旅行しようとなると東洋諸國の adresoj はない。先年出版された I. E. L. の 1939-版には Ĉinujo には Tientsin と Yunnanfu の二都市にしか delegito の ad. がなく、Japanujo の部には大阪、岡山、京城、東京、長府、山形に del. ad. があるきりだ。神戸、横濱の如き國際港にないことはこの Jarlibro の利用價值をゼロにする。Manĉukuo の部は皆無だ。滿洲には澤山の Esp-isto がいるのにその部がないことは I. E. L. までは滿洲國の承認をせないのかと思われる位に不思議だ。新興滿洲國と

して當然その部を設けさすべきは勿論であるが、それよりも日滿支の三國はお互に新東亞を建設せねばならぬ宿命をもっているのであるから Esp-movado に於ても三國は一體となつて、エスペラント・ブロックを作らねばダメだ。たゞ經濟ブロックや政治ブロックだけで東亞の再建が成ると思うのは唯物論的だ。心からの結びはお互に語り合つてこそ可能である。

私は不幸にして支那語を話せない。しかし支那語を勉強しようとは思わない。支那にも滿洲にも新興青年による Esp. 運動が必ず芽をふいて、私をして Esp-o だけで歐米を旅し、その青年達と快談せし如く、新中國でも新興滿洲國でも青年 Esp-isto が生れることを信じている。若し、滿洲國、中國に於ける Esp. 運動が日本人のみの運動であるならば無意味である。それはちつとも新秩序を意味せない。支那人の支那 Esp-運動、滿洲人の滿洲 Esp-運動であつてこそ初めて Sankta Movado である。しかし道は遠い。私達は手近な人々と結びつかねばならぬ。

中國、滿洲國の各都市に1人の観光エス協會の支部委員がいて内地からの Esp. 観光客を斡旋してくれるならば如何に内地の Esp-isto は心安く滿支を見學し親しめることだろう。私は各都市の熱心な同志の支持を得て日滿支にわたる観光エスペラント聯盟の結成される日を待望する。有志は私までお通知下さい。そして東洋の Jarlibro 的觀光委員の名簿を作ることを御助力下さい。(池川清、大阪府北河内郡香里)

「圖解辭典」Esp. 譯參加者

(4 月號參照) いままでにつぎの申込あり。

建築 220—221	化學 99—100	川村信
“ 309—310	伊藤 音樂 314—321	一郎
登山 259	幸一 公共 343—367	池川清
雪山登攀 260	教育 80—84	福井愛親
歴史・地理 464—470	亘理俊雄	(川崎直一)

各地報道

原稿は 20 字詰に！
締切は毎月末日厳守

東 京

〔學會水曜例会〕 佐々城佑先生によつて、昨年 5 月に始つたザメンホフ演説集の御講義は漸く終り、4 月中旬頃から引續いて佐々城先生によつて新しいテキスト〔H. G. Wells 著 La Tempête-Mašino〕（定價 1 圓、學會にあり）の御講義をお願いする事になりました。いよいよ時候もよくなりましたから皆様と御一緒に勉強致したいと思ひます。どうか御出席下さいませ。會費は無料。

◆3 月 13 日の水曜例会に大阪通信教育所講師兒島壯一氏、また 27 日の例会には有名な進藤靜太郎氏が御出席。エス語運動に御熱心な兩氏は、流暢なエスペラントをもつて OES の近況などについてお話し下さいましたので會員は大よろこびでした。

◆水曜例会の前のアランヂェント松本健一氏が満洲から 1 年ぶりで御上京になり、例会にも出席、土産話をして下さる筈でしたが、時間の繰合せがつかず御退京になつたのは誠に遺憾でした。

地方より御上京の方は繰合せて、成るべく水曜會に御出席下さいませ。（S. Ibusi）

〔東京エスペラント俱樂部〕 再編後の委員會は今後大いに慎重にやつて行きたいとゆうので、新しい方針と標準に就て研究を始めております。かうゆう問題について参考になるものがございましたら、學會氣付 TEK 宛にお教え願ひとうございます。

◆堀、倉地、石黒、三氏合同歓迎晩餐會＝3 月 16 日夜 YMCA 食堂に於て開催。出席者 34 名。高見宏氏の司會によつて、最初に委員長佐々城佑氏が TEK を代表して歓迎の御挨拶。次に TEK の生の親であり幹事長であつた堀眞道氏の上京の御挨拶。第 3 にアメリカから御歸朝の倉地治夫氏から、色々面白い失

敗談や各所の同志を訪問された話や、S-ro Scherer のはかりしれない友情と、エスペラントに對する熱意等について承り、私達は胸の迫る様な感激をおぼえました。續いて、戦地から元氣で歸還された石黒喜久雄氏の陣中の朗らかな土産話で一同は爆笑致しました。

それから、宮崎からわざわざ全國大會の準備の爲に上京された中川勝八氏の大會準備についてのお話があり、東京のエスペランティストは、せめて不出席参加でもせねばならぬ責任のある事を痛感致しました。最後に大連から御上京の藤井元子さんと朝鮮から御留學の石宙善さんの御挨拶があつて大喝采。婦人聯盟委員長萬澤まき子氏の閉會の辭をもつて終了致しました。

◆學會評議員として、又 R. O. に講習會に永い間、御盡し下さいました伊藤酉己三、大崎和夫兩氏は、昨年、それぞれ東京を離れましたが、残念なことには送別會さえも出来ませんでしたので、兩氏の功勞を感謝するために、ザメンホフ博士の肖像畫に佐々城先生に感謝の辭を書いて頂き、45 人の會員がサインをして TEK の名をもつて贈呈致しました。

◆3 月 27 日、TEK 委員 5 名は、エスペラントの大家進藤靜太郎氏から、全國大會開催には 300 圓の金が入るが、それが仲々集らず集つても後からで、地元のは、骨を折つた上に、金の心配もしなければならぬから大變であると云う事や、OES では先輩や大家がコメントアットと例会に肩を並べて研究したり會話したり朗らかにやつて居られると云うお話を伺つて、私達は反省させられました。

（井伏）

〔婦人聯盟東京グループ〕 3 月例会＝11 日菊廼舎が差支えたので會場を臨時に変更、銀味寮で開催。出席者、萬澤、大森、柏原、井伏の 4 名。本年度の事業に就て協議する豫定であつたが、出席者少數のため具體案の日本女性史編纂の件も確定的結論に至らなかつた。

（例会は毎月第 2 月曜日夜 7 時、銀座四丁目小野ピアノ横、菊廼舎しるこ店二階）

◆哲學講座＝3 月 13 日第一編「プラトン」の章を研究した。出席者 8 名。會場は新宿ノーヴァ、講師は地主千畝氏、用書は波多野氏著の「哲學史要」（井伏）

盛岡

〔盛岡エス會〕 彌生中ばともなれば、さしもの堅い氷も薄くなつて、斑ら雪に陽炎が戯れる。そろそろ冬にしがみついてばかり居ないで、殻を破つて其の後の事どもお報せしよう。

MER のザ祭は淋し過ぎた。在盛の Pra-MER-anoj には、凡て通知した積りだつたが、歸す處、井川先生と榊原氏だけ。公會堂の teo-ĉambro を占領してがんばつたが、待ちぼうけに愚痴づくお互いの顔を、淋しくながめ合つた。然しこの日の収穫は、反動効果となつて捷ち得られた。夫れは畢竟、okupita を唯一の武器にして、malvarmiĝi の一路を辿る amikoj を相手にしないで、内に掘り下げようとする熱情の具體化である。

『何かやろう、何か!』だが、malmultaj なるが故に、個々を刻むより以外に、差當つての名案も無く、結局、次の様な方法を採用する。「作文を毎月交換して kritiki し合う」。

榊原氏は“kastelo senjunula”と言う legendo を、自分は大膽にも“flava ‘cuju-kusa’”と nomi して、longa ia novelo を書き出す。既に interŝanĝo を了し、勉強に忙しい。

偕て、3 月になつて、俄然 ĝojo が訪れた。嘗つて本欄で報道した工藤隆子嬢が MER に reveni されたのだ。盛岡宮古東京と、終りに Tokia-MER へ逃げ込まれてしまつたかと、悔しがつて居たのだが…… 11 日、早速 nia ĉambro に kunsidi して、MER の爲に、歡びを頷ち合つた。

SUR LA JURNALISMO

新聞雑誌とエスペラント

東京朝日 3. 5. 學藝欄「外國語教育の是非(言語問題昨今の容體 2)——石黒魯平」のなかに、本誌昨年 10 月號「中等教育における外國語科問題」特輯中の國民の自尊心の問題に對する回答の率を例にひいている。

文化日本 3 月號「すくらつぷ」欄に、「大いなる素地」として、本誌 3 月號の卷頭論文、井上萬壽藏氏の「二つの念願」から、Japana Kulturo の項をひいている。

吾々は、まだまだ、海路の日和を待ち續けなければなるまい。だが、佳きともがらを増して、喜んで忍従生活に浸り得る倖せを臆て迎える若葉の春の、朗らかな前奏として慶ぶ。(岩本)

臺灣

〔高雄エス會〕 Kutima kunsido: ĉiulunde kaj ĵaŭde, de 20-a ĝis la 22-a.

Ĉe kuracisto, urba deputato, S-ro Jo Kinko, 楊金虎, Entei-ĉo, Takao.

Komenciĝis de la 18-a de Marto, Kunvenintoj: 楊金虎, 野田憲三(三井物産支店), 山内啓一郎及豊田益實(南報商事社印刷所), 中地芳藏(臺灣倉庫支店), 賴應賢(淺野セメント倉庫), 山鹿泰治(高雄税關).

Vizitantaj Samideanoj al Takao, la leviĝanta industria urbo, kaj la grava haveno por marŝi suden estas bonvegigotaj de T. E. R. Skribu kaj vizitu nin, ni atendas esperante.

讓受 けたし。石黒修著：模範エスペラント講座(全 3 卷，補 1 卷)元棍氏の會から出版されたもの。乞文。

大阪府北河内香里 池川 清

タイプ讓受 Hermes-Baby(以前學會で取次いだエス語のタイプライター)又は他のでもお譲りくださる方はありませんか。

杉並區成宗 1-127 川喜多榮一

文化日本 2 月號「關係團體の活動」のうちに、エスペラント獎學賞について。

誠明公論 3 月號「敵の娘——宮本正男」——ハンガリアのエネ・ヘルタイの小説を、シラージのエスペラント譯から。

社會福利 3 月號「プラーグの社會施設——池川清」——特に盲人保護事業について書いてあるが、それらの視察がエスペラントを通じておこなわれたことを強調してある。

興正 3 月號「貴重の古文書を焼却した昔話——古代エジプトの風俗人情——高橋邦太郎」——Biblioteko tutmonda の Grekaj papirusoj から抄譯。

この號に、倉地さんの報告と、スチエニアック氏の「ミツキエヴィチ」

を得たことをよろこんでいただけるとおもいます。

グラボウスキの古典的翻譯「S-ro Tadeo」によつて、われわれに、その名まえのしたい、ポーランド最大の詩人ミツキエヴィチの生涯こそ、これをポーランドの今日と考へあわせ讀むとき、このかなしい國につきまとう運命の影を見ることができましよう。

新聞紙の傳えるところによれば、ちかごろ、いろいろお氣の毒な状態にあられる秋田雨雀氏を慰め勵ます企てが、文壇と劇壇のひとびとの手によつてなされているとのこととあります。秋田さんは、2-3年まえ、ただ1人きりのお嬢さんを失われ、大きな打撃を受けられていたところへ、去年の秋から奥様が重い御病氣で、おさないお孫さんをかかえて、お仕事もおもりにまかせないありさまであられるとのこととあります。秋田さんは、かつては、學會の理事をなさつていたこともあり、エスペラント運動のためにも、いろいろお盡しくださつたか

たでありますから、エスペラントイストも、この企てに力を添えることができたらとおもいます。

おみまいのしるしをさしあげたいかたは、振替口座東京146040番、築地小劇場内秋田雨雀氏を慰勞する會（東京市京橋區築地2-2）へ送れば、とりついでくださるとのこととあります。

宮崎の大會も、いよいよ、まちかくなりました。別のところにも書いたように、準備委員會のかたがたが力をこめていられることはゆうまでもないことですが、宮崎縣や市の當局でも、たいへん、好意をもつて期待していたださつています。どうか、この光輝ある2600年の大會によき成功をもたらしたいものであります。

すでに出席の準備をしていられるかたはもちろん、まだもうしこんでいられないかたがた、すでにもうしこんでいられても、缺席參加の豫定でいられるかたがたも、どうかできるだけくりあわせ出席されるよう希望いたします。

では、また、おうくのかたがたに、宮崎でお逢いできることをたのしみにしております。

(M-S)

〔三月中學會訪問者〕

葛西藤太氏（青森）、神潔氏（青森）、兒島壯一氏（大阪）、中川勝八氏（宮崎）、石川道彦氏（滿洲國）、進藤靜太郎氏（大阪）、松本健一氏（滿洲國）、桑原利秀氏（大阪）

V. Korolenko: (廣告)

LA SENLINGVULO

(Trad. de Šidlovskaja)

數部まいりました。

1部3圓80錢（送料15錢）

わずかですから、御入用の方は、あらかじめ往復ハガキで御照會のうえ御注文ください

財團法人 日本エスペラント學會

會費

正會員（年額）3圓
贊助會員（同）5圓
特別會員（同）10圓
終身會員（一時金）100圓以上

會費について

印刷部數をきりつめました結果、會員以外の年極購讀は中止することにしました。

普通會員（年額2圓40錢）は、規約のうえに残つておりますが、會の經費は、それでは到底まかなえませんか、特別の事情のないかぎり、從來普通會員であつたかたも、繼續お拂込みに際しては、なるべく、正會員、または、贊助會員におなりくださいませ。

毎月一回
一日發行

エスペラント

第八年
第五號

昭和十五年四月十日 印刷
昭和十五年五月一日 發行

編輯兼
發行
印刷人

大井 學
竹田 佐藏
東京市神田區三崎町二ノ四

定價一部20錢・送料5厘

〔會員以外の年極購讀はとりあつかいません。〕

印刷所

一匡印刷所
東京市神田區三崎町二ノ四

發行所 財團法人 日本エスペラント學會 振替東京11325
東京市本郷區元町1丁目13番地4 電話小石川5415

エスペラント捷徑

小坂狷二著

四六判紙装 150 ページ・定價 50 錢・送料 6 錢

外國語の素養ある者のため

最も信頼すべき獨書として、古典的聲價をもち、エスペラントの獨習書といえ、ただちに「捷徑」といわれるほどになつてゐる。1 冊を前後 2 篇にわけ、前篇では、多くの文例を交へ、系統的に文法を教へ、後篇では、童話・會話・詩・諺・小説・演説など、いろいろな種類の文章を與へこれに、模範的な譯文と、深切な註釋とを加へさらに、「作詩法」を添へエスペラント詩を作り、あるいは、これを鑑賞するための手引としてある本書 1 冊を十分に讀みこなせば、1 人まへのエスペランティストとして必かしくないだけの實力を備へることができる。

小學校を卒業したただけの人のための獨習書

エスペラント講座

菊判・104 ページ
定價 50 錢・送料 6 錢

全 1 卷を 3 篇にわけ、上篇は外國語の知識の全然ないものにもよくわかるよう、全くの ABC から始めて、初等文法一般を説き、中篇は、上級文法、後篇は、深切な譯註つきの讀物を多數入れてある。これについて學べば、小學校卒業だけのものでも、最短期間に最大の實力を得ることができること請合ひである。

宣傳と學習をかねた小冊子

エスペラント案内

四六判 48 ページ美本・定價 30 錢・送料 3 錢

城戸城益敏著 「知識」15 ページ、「文法」15 ページ、「讀み物」7 課。

最上質の用紙に、全文 6 ポイントと 7 ポイントとの活字で、ぎつちりと、しかし鮮明無比に印刷してあるから、みかけは瀟洒なパンフレットであるが、内容は、普通の書物の百數十ページにあたり、大活字本以上に讀みやすい。寫眞版凸版 40 個入り。これ 1 冊でエスペラントとは何か、といふことから、文法全般にいたるまで知ることができる。まさにエスペラント獨修書中の豆戦艦である。

財團法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町 1-13・振替東京 11325

OES 文庫既刊

1 城戸崎益敏：

VERDA KANTARO

60 錢・送料 3 錢

最もひろく愛唱される歌曲、獨唱用 38 曲、合唱用 7 曲、樂譜および全歌詞つき

2 川崎直一： 誤り易い單語集

40 錢・送料 3 錢

エスペラントと他の國語と比較研究し學習者の誤り易い單語に注意を與う

3 桑原利秀：

エスペラント家族合せ

40 錢・送料 3 錢

エスペランティストの會合に、これひとつあれば、時間が愉快にすごされる

一部賣取次

財團法人 日本エスペラント學會

振替東京 11325 番

OES 文庫入會希望者は大阪市西區靱南通 3 丁目日清ビル早稻田クラブ内大阪エスペラント會文庫部(1 部賣取扱わず)へ内容見本請求あれ。

エクゼルツァーロ詳解

小坂 狷二 著

附

發音解説

接頭、接尾字一覽

エスペラント全文法

近
刊

小坂狷二先生生誕五十年記念刊行
小坂著作集・1

B 列 6 番(四・六) 230 ページ
定價 1 圓 50 錢・送料 9 錢

わが國エスペラント運動の父、小坂狷二先生が生誕 50 年を迎えられるにあたり、學會は先生の不朽の功績を記念するため、その著作集の刊行を企てたが、ここに近く、その第 1 篇を出す。「エクゼルツァーロ詳解」は、雑誌「エスペラント」1934-5 にわたり連載されたものであるが、この版においては、雑誌掲載のものに多くの朱筆を加え、雑誌では省いた“La Feino”をも加えていただいた。

全エスペランティストが再讀三讀誦すべき「エクゼルツァーロ」の原文に譯文、文法、註を加えたほか、發音解説、接頭、接尾字一覽、16 條全文法が加えてありさらに索引が添えてある。初學者も高級研究者も必ず備えるべき貴重な文献である。

本書は“Fundamento de Esperanto”(目下品切)のうち“Universala vortaro”がかけているだけである。

財團法人日本エスペラント學會
東京本郷元町1・振替東京11325番

昭和七年一月十二日 第三種郵便物認可
昭和十五年四月十日 印刷
昭和十五年五月一日發行(毎月一回一日發行)

「エスペラント」第八年 第五號

定價 二十錢(送料五厘)